

光ミュージアム 年報 2016.3

HIKARU MUSEUM

第9号
平成26-27年度

平成26・27年度 光ミュージアム年報 第8号

平成28年3月31日発行
編集・発行 光ミュージアム
〒506-0051 岐阜県高山市中山町175
TEL 0577-34-6511
FAX 0577-34-6065
<http://h-am.jp>

光ミュージアム 
HIKARU MUSEUM | 光記念館



HIKARU MUSEUM

目次

ごあいさつ

光ミュージアムの理念

テーマ「光」	5
地域に貢献できる博物館活動	5
生涯教育に役立つ博物館	5
国際交流の推進.....	5

施設概要

建築概要	6
施設の規模	6
フロアガイド	7

展示概要

常設展示	8
1階企画展示室.....	8
飛騨展示室	10
人類史展示室	13
美術展示室	14
特別展示	24
世界遺産 富士 ～北斎・広重・大観 他～	24
豪放磊落な俳人 加藤郁乎展	27
エジプトvs縄文.....	29
開館15周年 光ミュージアム 日本画名品展 ～北斎、大観、玉堂、松園 他～	33
桜 さくら サクラ ～大観、玉堂、松園、清方、加山又造 他～	35

地中海世界展 ～ギリシア、ローマ、エジプト 他～	38
紅葉と紫式部展 ～大観、玉堂、松園 他～	41
企画展示 美術部門	44
木村盛康作陶展	44
企画展示 飛騨部門	46
地球温暖化と生物多様性展	46
化石燃料と再生可能エネルギー展	47
再生可能エネルギーとその未来展	49

教育普及活動

出張美術館	50
実施にあたって	50
平成26年度	50
平成27年度	52
体験学習	54
実施にあたって	54
人類史部門の体験学習	54
飛騨部門の体験学習	55
貸出資料	58
作品貸出	58

ごあいさつ

光ミュージアムは、平成11年4月の開館より17年を迎えさせていただきました。
当館は平成14年に博物館法による「登録博物館」として、また平成19年には文化庁より文化財保護法第53条の規定による「公開承認施設」として承認をいただき、美術館・博物館活動を行っております。ここに年報第9号を刊行し、平成26・27年度の事業報告を致します。

特別展としては「紅葉と紫式部展～大観、玉堂、松園 他～」 「地中海世界展 ～ギリシア、ローマ、エジプト 他～」 「開館15周年 光ミュージアム 日本画名品展～北斎、大観、玉堂、松園 他～」 「桜 さくら サクラ ～大観、玉堂、松園、清方、加山又造 他～」 「エジプトvs縄文」 「世界遺産 富士～北斎・広重・大観 他～」を、また、企画展として「豪放磊落な俳人 加藤郁乎展」 「木村盛康作陶展」を行って参りました。

教育普及活動としては、教育委員会ならびに学校と連携して連年小・中学校で行っている「出張美術館」が13年目を迎えました。

また、大学との協力による岐阜女子大文化創造学部書道教育コースの書道練成会も、5年連続して開催することができました。

お蔭さまで当館のコレクションに対し、国内外の美術館・博物館から作品・資料の出品や貸し出し依頼が増えており、これに応じて他館との連携も深めております。これからも、地域社会はもとより国際的にも貢献できる総合博物館として、事業・活動の充実を図って参りたいと存じます。これまでご協力を賜りました関係機関、関係者各位に心より厚く御礼を申し上げますと共に、今後とも当館に対し、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう謹みてお願い申し上げます。

平成28年3月31日
光ミュージアム

光ミュージアムの理念

テーマ「光」

地球環境との対話が叫ばれる今日、生命エネルギーの根源である「光」をテーマに博物館活動を行なう。「光」のテーマは広範囲である。太陽からの光、自然からの光、化石等過去の物質からの光、人工的な過去の文明からの光、また、芸術・美術、人の心からの光など。こうした人類に向けて放たれる光を多方面にわたり

- ① 資料収集・保管
- ② 調査研究
- ③ 資料・収蔵品の紹介・展示
- ④ 教育普及活動

することにより、人類・社会の精神的・物質的な向上を目指すものとする。

来館者が、長い年月の中で地球や人類が育んできた歴史をたどり、自然と人類が残した優れた美・芸術・文化に触れることにより、今後の生き方、未来へ歩む方向性を見出せるような活動を展開して行く。

地域に貢献できる博物館活動

飛騨地域は、特有（古生代から新生代）の地層・地質・岩石・化石等を保有している。そこに住む人々の歴史と伝統文化を紹介することにより、地域に融和した文化環境の向上を目指す。

地元、飛騨地域（高山市を含む）を中心に、岐阜県及び中部地区に貢献できる社会教育施設として、博物館活動を展開して行く。

生涯教育に役立つ博物館

老若男女を問わず、児童・生徒から大人まで気軽にご来館いただける公共施設として、生涯教育に役立つ総合博物館として、特に、今後の未来を担う青少年の知育向上のための教育施設として広く一般に利用していただくことを目的とする。

国際交流の推進

世界古代文明の遺物や優れた芸術品を展示・紹介することにより、国際交流の推進並びに地域社会の国際化にも貢献する。

そのため積極的に国際的な企画展を実施して行く。

施設概要

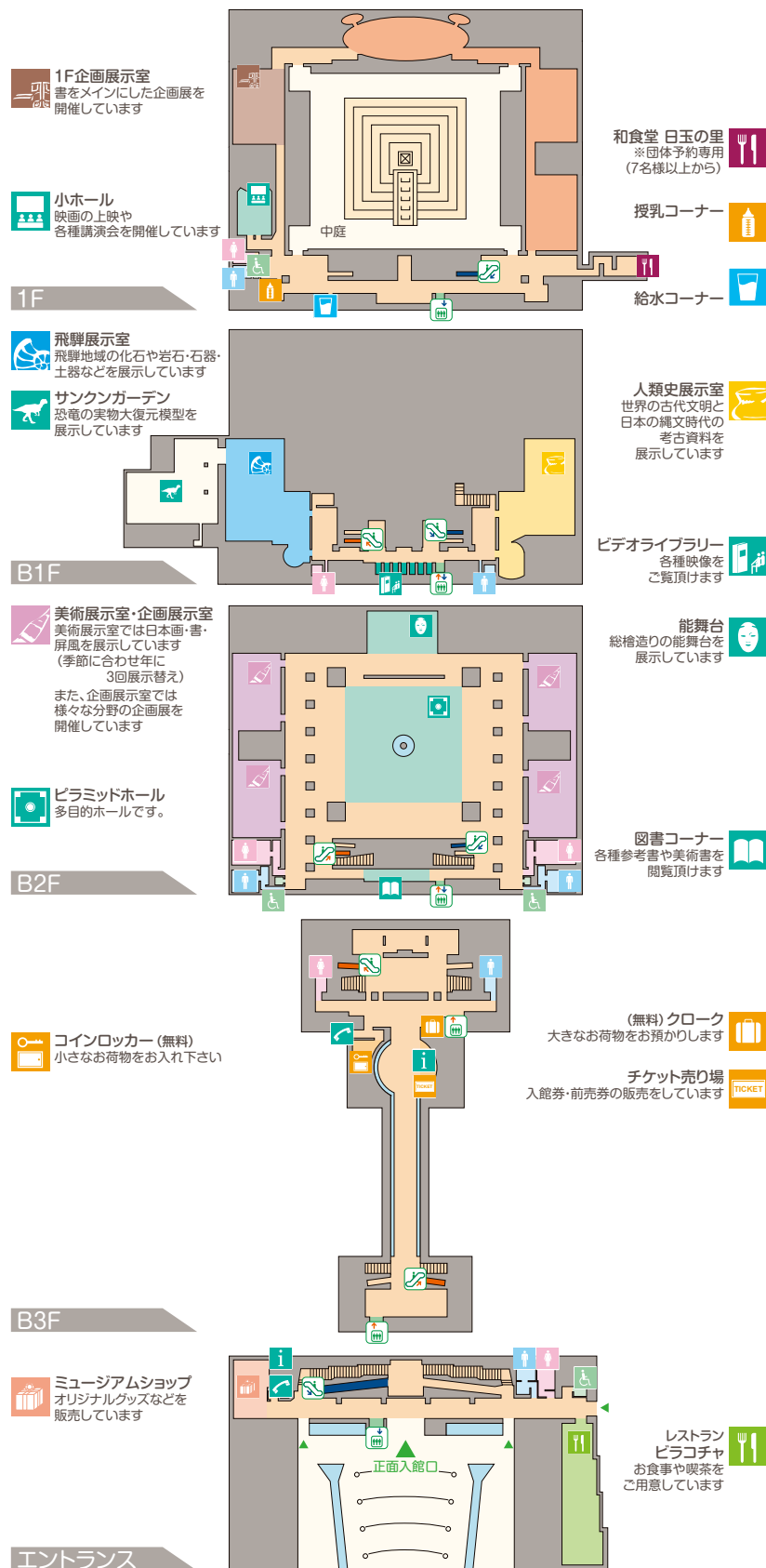
建築概要

所在地	岐阜県高山市中山町175
地区・地域	第2種住居地域 教育文化地区
工期	着工：平成5年6月23日 竣工：平成10年2月27日 開館：平成11年4月8日
敷地面積	75,753.75㎡ (22,915坪)
建築面積	14,097.00㎡ (4,264坪)
建ぺい率	19.78%≤48.17% (地区計画)
延床面積	32,668.81㎡ (9,882坪)
容積率	45.84%≤76.34% (地区計画)

施設の規模

駐車台数	来館者用 乗用車 105台 バス 27台 職員用 乗用車 66台
見学ゾーン面積	
1階	3,750.62㎡ (1,135坪)
地下1階	2,812.12㎡ (851坪)
地下2階	7,013.97㎡ (2,122坪)
合 計	13,576.71㎡ (4,107坪)
能舞台	1 舞台
小ホール	108席
収蔵庫面積	1,534.62㎡ (464坪)
図書室	30席
レストラン「ピラコチャ」	108席
和風レストラン「日玉の里」	82席 (団体予約専用)
立礼席	32席
美術館棟の外形	101m×86m
外部ピラミッドの高さ	20.7m (中央床面より)
内部ピラミッドホールの天井高	21.7m (地下2階フロアより)
可変床面積	1,353㎡ (409坪)

フロアガイド



公衆電話



ご案内



エレベータ



エスカレータ (上り)



エスカレータ (下り)



男性トイレ



女性トイレ



身障者トイレ

展示概要

常設展示

1階企画展示室

1.展示目的

古来より人の精神性に深く関わり洗練されてきた美術の展示を通して高い感性を培うことを目的として小規模な企画展示を行う。

2.展示内容

大陸から伝来し、長い歴史を持つ日本の漢字書は、戦後、大きな変革期を迎えた。そのひとつに手島右卿らが牽引した少字数書の誕生があげられる。少字数書は文字数を1～2文字に限定し、時には淡墨を用いて文字の造形性を強調することにより、読める書や感じる書という、美術として鑑賞される書を標榜し発展してきた。本展示室では手島右卿とその一門の現代書を中心に展示している。

平成26年「春」

分類	作品	作者	制作年
現代書	如是	稲村洞雲	
	うつろひ	阿部朱昂	
	絆	吉田玉雲	
	幽	原田圭泉	
	無事	戸田提山	平成7年
	鶴寿千歳	高澤翠雲	
	坐看雲起	佐々木月花	
	巍	山崎大抱	昭和60年
	天心	酒井真沙	
	像	小林抱牛	
	蓮	上松一條	
	「いまだひとり…」	青木香流	昭和40年代
	天使の階段「兆」	大杉弘子	平成8年
	万葉の五歌	沢田明子	平成13年
	八風吹不動	土田帆山	昭和63年
	随順	棟方志功	昭和元年～50年
	龍蛇之蟄	平方峰壽	
	「さあ今日もがんばろう…」	豊口広	平成10年
	透	鈴木桐華	平成3年頃
	漢詩「青山前与後…」	鈴木鳴鐸	昭和初期
	寂聲	齋藤香坡	

平成26年「夏」

分類	作品	作者	制作年
現代書	鷺	上松一條	平成10年
	「てふてふひらひらいかたをこえた」	岡野蒼生	平成3年頃
	暁	加藤石泉	
	魂	後藤教子	昭和62年
	千鳥と遊ぶ智恵子	小室李谿	
	児戯	斉藤青鳥	

分類	作品	作者	制作年
現代書	帰一	佐々木嘉邦	平成9年
	永平	貞政少登	昭和～平成
	仏足	柴山抱海	
	聖観音	//	昭和30～平成11年
	大日如来	//	
	張玄墓誌	正田耀花	平成9年
	伊都内親王願文	立石光司	平成8年
	俳句「鈴おとの…」	手島小華	昭和58年頃
	漢詩「艸色青青柳色黄…」	西田大画	昭和40年代
	堀口大學の詩	濱田崇湖	平成10年
	打坐	藤田金治	平成9年
	風神	山崎大抱	
	花野	大石千世	昭和61年
	夢	岡野雅行	平成12年
	忘個利他	手島泰六	
	華嚴	横山夕葉	
	汝	中根海童	

平成27年「春」

分類	作品	作者	制作年
現代書	光明	山下海堂	
	花	北畑観欄	
	荘厳	松井玲月	
	遂	桐山大綬	平成8年
	華嚴	須田剋太	平成2年
	山静松聲遠	田中白歩	平成9年
	雪竹	角紅苑	
	あめそそぐ	松浦江舟	
	和歌	北川佳邑	
	「T・S氏は…」	高松慕真	昭和34年
	撕	小島碧雲	平成9年
	得一	浅海蘇山	
	蔵	上松一條	
	疊	鶴木大寿	平成9年
	愚	板倉大河	平成3年
	杜	土屋弘鳳	平成12年
	ステラのニシェ～石版の扇・窪み～	大杉弘子	
	色即是空	水嶋山耀	平成9年
	壺	上田桑鳩	昭和
	為	平方峰壽	
	初あかり	北畑円美	平成23年
	逢	岡野蒼生	

平成27年「夏」

分類	作品	作者	制作年
現代書	「いまだひとり…」	青木香流	昭和40年代
	魁	青柳志郎	昭和53年
	瀧行	矢萩春恵	
	うつろひ	阿部朱昂	
	「夏すぎて…」	池田満寿夫	平成3年
	雄志	石川雲鶴	平成9年
	天聴	伊藤千勝	
	鷺	上松一條	平成10年
	秘め事の文字「朝」	大杉弘子	平成4年
	和歌	北川佳邑	
	像	小林抱牛	

分類	作品	作者	制作年
現代書	児戯	斉藤青鳥	
	激破貫通	須田剋太	平成元年
	烟花	角紅苑	
	伊都内親王願文	立石光司	平成8年
	八風吹不動	土田帆山	昭和63年
	拝	中井史朗	昭和27年～平成13年
	感子標母恵	平方峰壽	
	漢詩	松嶋楠城	平成7年
	彪	山崎大抱	昭和27～平成3年
	汝	中根海童	
	玄妙	手島泰六	

飛騨展示室

1.展示目的

現代の人類社会を支える自然が現在の姿になるまで、人類を含む全ての生命が果たしてきた役割と環境の変化を紹介する。

いつの時代においても1つ1つの生命には役割があり、一切無駄無く配置されている。生命と環境の長い歴史と積み重ねを知ることにより、自然をかけがえのないものとして再認識し、慈しむ心を育てる。

2.展示内容

飛騨は古生代の福地累層、中生代の手取層群、新生代の火砕流堆積層等各年代の地層や岩石が露出していることで有名である。

飛騨の実物資料を通して、地球の自然界における普遍真理を捉え、一切無駄無く培われた生命の役割と命の尊さ、環境との関わり等を紹介している。

展示は飛騨産出の化石と考古資料を中心に古生代から現代までの飛騨の歴史と生命の関わりを提示している。展示は命と心の大切さを伝えられるよう、復元模型やジオラマに力を入れた。特に植物ジオラマは、葉脈に至るまで化石を元に忠実に復元している。

〈輝く生命の星〉

導入部に宇宙から見た地球を表現し、自然の美しさと不思議さを提示しながら視点を飛騨に絞っていく。

※展示手法

○地球模型・100インチモニター映像

○実物資料：隕石

〈古生代〉

飛騨にある古生代の地層から、サンゴをはじめとする海の生き物の化石が数多く発見されている。

これらの原始生物は何億年もかけて大量の酸素を放出し、生命の星とよばれる地球の基礎となる、オゾン層や大気等の環境をつくったといわれている。

また、現在の珊瑚礁のように、古生代のサンゴと藻類等も理想的な共生関係を保って繁栄を遂げたことを紹介している。

※展示手法

○実物資料…海生動物化石・岩石

○復元模型…実物資料を用いて「福地累層」「デボン紀岩盤」の一部を原寸大に復元した。

○ジオラマ…「デボン紀」「石炭紀」「ペルム紀の海」の様子を忠実に復元した。ミラービジョン・映像。

〈中生代〉

飛騨地域にまたがる中生代の地層「手取層群」は恐竜や植物化石を多く産出することで知られている。海から陸、湖、川、空へと生活環境を広げ、動物と植物が共生しながら繁栄を遂げ、中生代の生活環境をつくったことを伝える。

※展示手法

- 実物資料…陸上植物化石・海生動物化石等。
- ジオラマ…手取型植物群を原寸大で葉脈に至るまで、精巧に復元した。
- 恐竜模型…手取層群から発見されたスギヤマリュウ・カガリュウの原寸大復元模型。

〈新生代〉

飛騨の山々は、新生代の活発な火山活動とプレートの活動によって形成されたといわれている。大地の巨大なエネルギーを地形の痕跡等から伝える。

また、新生代は人類が出現し、活動を始めた時代でもある。

人類が作った道具を地球史46億年の産物である岩石、粘土、木の素材表現をするという視点で展示し、自然の産物を借用して人類は営み始めたことを伝えている。自然に適応するために道具を作り、自然素材の特性を活かして繁栄を遂げた人類と自然との共生を紹介する。

※展示手法

- 実物資料…石器、土器、岩石。
- 映像模型…噴火と再生の様子を紹介。

〈考古〉

高山市丹生川町広殿（ひろんど）遺跡の紹介

※展示手法

- 実物資料…土器・石器

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習をする場とする。

ぺたぺた地層をやってみよう…古生代・中生代・新生代の3つの時代の地層を作り各時代の生きていたもの（ぬいぐるみ）を貼り付ける体験学習。

※学習手法

- Q & A コーナー…タッチパネルモニターでの、展示内容を題材にした3択5問のクイズで、展示の復習を促している。
- 体験学習室…多目的スペース。実物資料に触れる、企画展等を計画。
- 体験学習室…触れる化石、拓本体験コーナー、恐竜パズル、折り紙コーナー、ぬりえコーナー等。

展示替え

開催日

古生代：平成26年2月27日(木)～

中生代、新生代：平成27年2月27日(金)～

展示目的

飛騨地方とその周辺地域より算出した化石や岩石を中心に展示し、飛騨の歴史を解説するとともに、日本列島の成り立ちについても考察をすすめる。飛騨地方の各地を紹介することで、古生代から新生代までを網羅する。

展示概要

古生代：開館時よりシルル紀からペルム紀までのジオラマが展示されているが、今回各紀のジオラマに復元されている古生物の化石を年代別に選定をするとともに、各コーナーごとにテーマを設け展示を行った。また、展示資料数を大幅に削減し資料同士の見通しを改善した。また、解説パネルを刷新した。

中生代：来館者に対して展示物が見えないという問題点の対策として、重複する資料、飛騨地方以外の資料を削減し資料同士の見通しを改善した。飛騨地方産出の恐竜の歯を展示に加え、屋外の実物大恐竜ジオラマの解説を刷新した。

新生代：展示資料の殆どを入れ替え、解説パネルを刷新した。新生代の飛騨地方に起こった火山活動や隆起などを中心に高山盆地の形成などを資料と共に紹介し、一方でプレュームテクトニクスについて簡単に解説を行う。

監修・協力

古生代：猪郷久義(筑波大学名誉教授)

新生代：下畑五男(元岐阜県博物館館長)

協力：真鍋真(国立科学博物館) 久保貴志(元岐阜県博物館) 三宅幸雄（敬称略）

展示資料

古生代：化石66点 岩石6点

中生代：化石27点

新生代：岩石12点 その他59点

人類史展示室

1. 展示目的

展示は、人類が共通して持つ普遍の心、『崇める心』をテーマにした。

古来より人類は自然を畏れ尊び、人間の知恵と力の及ばないところに神の世界があると考え、崇める心を培ってきた。豊かな文化や現代にまで残る遺産といった古代文明の所産は「崇める心」の象徴であり、現代文明においても人々の心のよりどころとなっている。また、先人の努力があって我々も今日の生活を営めるのであり、何千年も前から現代にまで通じる文化の共通性・独自性を知ることが、今後の文化・文明を考える上でも重要である。

ダイナミックな造形を生んだ世界各地の文化遺産の展示を通して、21世紀を生きる現代人の視野を広げ、文明を育む原動力となった人類の心を問う場を提供している。

2. 展示内容

人類史展示室では、世界各地の考古資料を各文明・文化ごとにまとめた展示を行っている。旧石器時代から世界の7つの文明と日本の縄文時代について、その全体像と精神性を実物資料、模型、解説パネル、映像、ミラービジョン等によって紹介している。

『崇める心』をテーマに人類の心を探り、その帰結としての諸文明を提示している。

〈旧石器時代〉

約400万年以上前から世界各地に広がった人類は、厳しい自然環境に適応しつつ豊かな文化を育んでいった。火の使用、石器の加工技術、豊穡や秩序を祈る洞窟壁画等を通して、旧石器時代の人々の『崇める心』を中心に紹介している。

※展示手法

○実物資料…旧石器。

○縮小模型…旧石器時代の洞窟壁画。

〈世界の古代文明〉

約1万年前頃から、世界各地に文明・文化が興っていった。古代文明展示の導入として大型の地図・年表を配置し、7つの文明と日本の縄文時代の地理的・時代的な位置関係を一望できるよう工夫した。

各文明に見られる環境や遺跡・遺物を一堂に見ることで、それぞれの相違点や普遍性を垣間見ることができる。

※展示手法

○世界地図に8つの21インチモニターを配置し、各文明の気候風土・代表的な遺跡・遺物を映像で一覧できるようにしている。

〈古代文明〉

紀元前3000年頃より栄えた世界的にもよく知られる7つの文明を、コーナーごとに分けて展示している。

世界各地の古代文明を社会のあり方や建築、実物資料の造形や紋様等、多方面から見つめ、比較することで、それぞれの文明を支えた人々の宗教観・死生観を探り、人類の未来を模索できるようにしている。

※展示コーナー

①メソポタミア文明

②ギリシア・地中海文明

③エジプト文明

④メソアメリカ文明

⑤中国文明

⑥インダス・インド文明

⑦アンデス文明

※展示手法

- 実物資料…保存状態の良い副葬品の展示。特に中・南米は当時の人々の精神性を伝える土器や、布製品等の一級資料で充実している。
- グラフィック…大型写真パネル、地図・年表、解説文を全文明統一した手法で配置している。
- 模型資料…当時の人々の精神性を伝える神殿縮小模型（ウルのジクラット・パルテノン神殿・ティカール神殿）、三内丸山遺跡の復元模型、巨木柱等を設置している。また、アンデス文明『太陽の門』の精巧な原寸大の模型は、現地の天野博物館にご協力いただいた資料を元に作成したものである。

〈縄文〉

縄文時代は近年の発掘・調査・研究により、その生活水準の豊かさが見直され、現在でも新たな発見が相次いでいる。

自然と共に生き、1万年以上もの間続いた縄文時代の全体像を提示し、同時期に栄えた世界の文明と共に展示している。

※展示手法

- 実物資料…土偶、土器、石製品。
- レプリカ…木製品、土器。
- ミラービジョン…三内丸山遺跡の5500年前と発掘時の様子を縮小模型で重ねてみせる。盛土模型、巨木柱模型、縄文時代の紹介映像

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習する場とする。

※学習手法

- 古代文字スタンプ…エジプトのヒエログリフとマヤ文字のスタンプを用意し、名前や来館日等を古代の絵文字で押して、持ち帰られるようにしている。
- 土器の立体パズル…縄文の火炎土器とアンデスの鐙形土器を電磁石で組み立て、資料復元のミニ体験ができるようにしている。
- Q & A コーナー…タッチパネルモニターでの、展示内容を題材にした3択5問のクイズで、展示の復習を促している。
- スタンプラリー…展示室内9ヶ所にスタンプを設置し、各文明の建物や器・土偶などのスタンプを押せるようにしている。

美術展示室

1.展示目的

芸術は古来より人の精神性に深く関わり、洗練されてきた。万人に通ずる清明正直な美の世界から、高い感性を培うことを目的としている。

2.展示内容

光ミュージアム地下2階には展示室が4室ある。この4室を特別展の内容に合わせて配分し、特別展の展示と美術のコレクション展示とに使用している。

当館は浮世絵の作品が充実しており、肉筆画：約420点、版画：約220点のコレクションは日本有数といえる。またこの他に、近・現代の日本画が約250点、書が約230点、西洋絵画及び日本近代洋画が約140点、現代アートが約60点ある。常設展として、展示室内には日本画・書・洋画を、展示室外のギャラリー壁面には肉筆浮世絵を、中央の多目的ホール（ピラミッドホール）には現代アートを展示し、このうち浮世絵と日本画と書は作品の保護を考慮して年に3～4回展示替えを行っている。

平成26年「通年」

分類	作品	作者	制作年
現代アート	憶劫	須田剋太	
	切るなり	//	昭和63年
	華厳	//	平成2年
	茶	//	昭和58年
	天	//	昭和61年
	ー	//	昭和63年
	○△□	//	
	行心	//	昭和61年
	大道	//	平成元年
	愚徹	//	昭和61年
	甲山	//	
	神戸夜景	//	昭和58年
	日本海	//	平成元年
	牡丹（赤）	//	昭和58年
	京南瓜	//	//
	抽象	//	
	三人の人物	アウレリア・ムニョス	1971年
	襟付きケープ	//	
	パンプースティック	//	
	アベ・ブランカ	//	
	リプロ・シックサック	//	
	白い海	//	1986年
	無題	//	
	インカへのオマージュ	//	
	庭	//	
	生垣	//	
	十字路	//	
	ペインティング	//	
	テーブル	イヴ・クライン	
	麒麟	池田満寿夫	
	y-古代夢幻	//	平成5年
	y-頭龍	//	平成4年
	y-青笛川	//	平成6年
	浦島	//	
	スイカを食う女	//	1998年
	緑陽	//	
	万葉人	//	
	舍利	//	
	ミツマタ備長炭オブジェ	保坂桂一	平成13年
	少女像	富永直樹	
	晴日	//	昭和59年
	鯉	//	昭和51年
	松寿	//	
	獅子吼	北村西望	昭和56年
	鮭寿想帰	//	
	虎視眈眈	//	
	天童大黒童子	藪内佐斗司	平成21年
	CARDBIRD I	ロバート・ラウシェン バーグ	
	CARDBIRD II	//	
	CARDBIRD III	//	
	CARDBIRD IV	//	
	CARDBIRD V	//	
	CARDBIRD VI	//	
	CARDBIRD VII	//	
	カードバードドア	//	1971年
	夏至	ポール・ジェンキンス	1982年

分類	作品	作者	制作年
現代アート	母性	ティンシャオカン (丁紹光)	
	コリチェッラー虹のたつ港	笹倉鉄平	
洋画	スピリアート夫人	カレル・ヴァン・ベル	1920年
	波	ギュスターヴ＝クールベ	1869年
	画家とモデル	ギュスターヴ・コラン	19世紀
	岸辺の小舟（ヴィル・ダブレー）	ジャン＝バティスト＝カ ミーユ・コロー	1865～70年頃
	木を拾う人	//	1855年頃～1875年
	羊の居る風景	//	1869年
	川の女神の姿をした婦人の肖像	ジャン＝マルク・ナティ エ	18世紀
	ヴェネツィア サン・ジョルジョ・マッジョーレ 島	ジョルジョ・デ・キリコ	1920頃～1978年
	テアトル	パブロ・ピカソ	1967年
	洗濯をする農婦	フィンセント・ファン・ ゴッホ	1885年頃
	ボースの風景	モーリス・ド・ヴラマン ク	1940年
	海	//	1908年頃～55年
	ラ・フェルテ・ミロン城	モーリス・ユトリロ	1939年頃
	薔薇図	梅原龍三郎	昭和16年
	椿	岸田劉生	昭和2年
	熊の湯雪景	熊谷守一	昭和12年頃～昭和52年
	暑中休暇の校庭	坂本繁二郎	大正4年
	冠鶴	須田国太郎	昭和16年
	千種百合	中川一政	昭和20年頃～平成3年
	粧える女	林 武	昭和28年
	海	藤島武二	昭和8年
	赤い花	三岸節子	昭和21年頃～平成11年
	アフリカの花	//	昭和48年
	婦人像	宮本三郎	昭和36年
	栗とレンガと猿のこしかけ	山口薫	昭和25年頃～昭和43年
	木蓮のある静物	武者小路実篤	昭和1年～51年頃
	季節の鳥	脇田 和	昭和30年～平成10年頃
彫刻	天女の飛翔	北村西望	
	ヌクトマル	流政之	
	生命シリーズ～陽光から宇宙へ～	剣持忠	
	生命シリーズ～二つの再生～	//	
	殺すことのできない人間	フレデリック・フランク	
	胸像	ズビネック・セカール	
	トルソ	//	
	柱	//	
	雄弁	エミール＝アントワー ヌ・ブールデル	1913～1923年
	自由	//	//
	勝利	//	//
	力	//	//
	果実のトルソ	//	1911年
	プライド	コンスタンティン・ ブランクーシ	1905年頃
工芸	無題	武政健夫	平成19年
	無題	//	//
	虹	安達靖子	
	時間	//	

平成26年「春」

分類	作品	作者	制作年
肉筆浮世絵	遊女と禿	歌川豊広	江戸後期（天明～文政）

分類	作品	作者	制作年
肉筆浮世絵	遊女道中	歌川久信	江戸後期
	花軍	作者不詳（川又派）	江戸中期
	見立源氏物語若紫	作者不詳（北尾派）	江戸中～後期（宝暦12～天保）
	摘み草美人	作者不詳（西川派）	江戸中期（元禄～享保頃）
	縁先に座る娘と金魚鉢を持つ少女	至信	
	桜下美人	赤 南張	江戸
	円窓の三美人	鳥園斎 栄深・島 君山	江戸後期（寛政～享和頃）
	娘と子供	橋本周延	江戸後期～明治
	遊歩美人	英一桂	江戸
	舞姫	昌盛	//
	品川遊興	養俊	江戸後期
書	「をぐら山…」	安東聖空	昭和初期
	漢詩「藜杖全吾道」	池大雅	江戸中期（享保15～安永5年）
	漢詩「花柳春至盛」	市河米庵	江戸後期
	漢詩「落花水暖干…」	勝海舟	幕末～明治32年
	清水比庵の歌	桑田笹舟	昭和初期～中期
	春水来	鈴木翠軒	
	鳥栖書	仙崖	江戸後期
	猿丸集断簡	伝・藤原行成	平安中期
	智信仁勇厳	東郷平八郎	大正2年
	漢詩「新霽初之夕…」	中林梧竹	明治時代
	杜甫の詩	貫名菰翁	江戸後期（安政5～文久3年）
	海舟先生座右銘	宮島詠士	明治～大正
	漢詩	山岡鉄舟	幕末（嘉永3年）～明治21年
	いろは歌	伝・良寛	江戸後期
	静	手島右卿	
	六字の対句	渡辺沙鷗	明治10年頃～45年

平成26年「夏」

分類	作品	作者	制作年
日本画	美人納涼図	上村松園	大正時代
	夏の夜図	//	明治28～大正13年頃
	夏の美人	//	//
	鯉	加藤東一	昭和～平成
	黒馬	狩野益信	江戸中期（元禄）
	夏姿	鍋木清方	昭和15年
	行水	//	
	鯉	加山又造	
	湖村夕照	川合玉堂	明治43年
	たゆとう霧	工藤甲人	昭和52年
	雀の宿	小杉放庵	昭和15年
	山居	狩野知信（永秀）	江戸後期～明治17年
	扇夕顔の図	作者不詳	江戸初期
	聖徳太子絵巻	//	鎌倉時代
	蝗	木村武山	明治33年頃
	臨水観音丈土図	高森碎巖	明治28年
	松泉清聴の図	橋本閑雪	明治～昭和
	湖辺	菱田春草	明治35年
	芦葉達磨図	宮本武蔵	江戸初期（寛永17年頃～正保2年）
	御鷹図	棟方志功	昭和24年
	山下煙樹図	村上華岳	
	百合	山口華楊	昭和40年代後半
	溪瀑	山口蓬春	
	夏の山路	山元春挙	明治
	月下の雁	横山大観	大正2年頃
	夏秋草図	今井俊満	昭和62年
	十二客花名譜	狩野永岳	幕末（万延元年）

分類	作品	作者	制作年
肉筆浮世絵	湯上り美人	歌川国幸	江戸後期
	見立七夕	歌川貞重	江戸中期（正徳～享保）
	松風村雨	歌川豊春	江戸中～後期（明和～文化11年）
	見立普賢菩薩	葛飾為直	江戸後期
	蚊帳美人	作者不詳（懐月堂派）	江戸中期
	髪結い	//	//
	撥を持つ美人	作者不詳（北尾派）	江戸中～後期（宝暦12～天保）
	盆踊り	作者不詳 （近世初期風俗画）	江戸前期
	蚊帳美人	作者不詳（鳥居派）	江戸中～幕末（元禄～慶応3年）
	本読み美人	作者不詳（西川派）	江戸中期（元禄～享保頃）
	浴後美人	高田米晃	江戸後期（寛政～文化頃）
	矢をさす美人	月岡雪鼎	江戸中～後期
	柳下納涼	古山師政	江戸中期（宝永～延享）
	遊女道中	//	//
	見立普賢菩薩	礪川亭一指	江戸後期（寛政～文化頃）
書	天寿	市河米庵	幕末（安政4年）
	寿山	//	//
	蹄雁詩	大島君川	明治～大正
	歌に若松葉図	太田垣蓮月	江戸～明治
	「用ありといへども…」	大田蜀山人	江戸中～後期（明和4～文政6年）
	漢詩「寒煙沙月…」	日下部鳴鶴	明治13年頃～大正11年
	二行書	小坂奇石	
	宝祚之隆天壤無窮	高橋泥舟	幕末（嘉永6～明治元年）
	漢詩「緑竹半含…」	武田霞洞	明治～大正
	鶴舞	手島右卿	昭和60年
	君が代	東郷平八郎	明治40年～昭和9年
	惟穆	西川春洞	明治
	藤原定家自筆書状	藤原定家	平安末期～鎌倉初期
	「ふく風の…」	堀桂琴	明治40年～平成14年
	和歌	松花堂昭乗	江戸初期
	南山壽	松林桂月	大正～昭和38年

平成26年「秋」

分類	作品	作者	制作年
肉筆浮世絵	文書く女	歌川国政	江戸後期（寛政7年頃～文化3年）
	若侍	鳥園齋栄深	江戸後期（寛政～享和頃）
	立ち美人	鳥橋齋栄里	江戸後期（寛政5～8年頃）
	煙管を持つ女	一掬齋栄文	江戸後期（寛政～文化頃）
	傘持つ美人	喜多川吉麿	江戸後期（文化頃）
	汐汲みの舞	吉原真龍	江戸後期（天保～弘化）
	千代能	月岡雪鼎	江戸中期（明和2～安永元年）
	唐美人	司馬江漢	江戸中期（明和～安永頃）
	色子立姿	山崎龍女	江戸前～中期
	立ち美人	菱川吉左衛門	//
	茶屋前の遊女と禿	長斗合	//
	太夫と禿	古山師重	//
	遊女と禿	歌川豊春	江戸中～後期（明和～文化11年）
書	宸翰御消息	後陽成天皇	桃山～江戸初期 （天正19～元和3年）
	一行書	貝原益軒	江戸前～中期（明暦2～正徳4年）
	寿星拝日讃	皆川淇園（愿）	江戸中期
	勤皇志士	藤田小四郎	幕末
	漢詩「東召芳事已春深…」	巖谷一六	明治13～30年
	和歌	土井晩翠	明治31年頃～大正頃
	松島瑞巖寺葡萄木彫賛歌 「わだつみの…」	島崎藤村 中村春堂	明治30～昭和18年 大正～昭和35年

分類	作品	作者	制作年
書	四季の歌（秋）	岡山高蔭	大正～昭和20年
	和歌	鈴木翠軒	昭和7～53年
	住の江の古歌	田中塊堂	昭和30年代
	汀	徳野大空	昭和35年
	楼	手島右卿	昭和56年
	漢詩	頼山陽	江戸後期（文政10年）
	「おほ君の…」	若山牧水	大正後期～昭和初期
	漢詩「冬顔暄暖開…」	頼山陽	江戸後期

平成27年「通年」

分類	作品	作者	制作年
現代アート	憶劫	須田剋太	
	切るなり	//	昭和63年
	華厳	//	平成2年
	茶	//	昭和58年
	天	//	昭和61年
	一	//	昭和63年
	○△□	//	
	行心	//	昭和61年
	大道	//	平成元年
	愚徹	//	昭和61年
	遊女	//	平成元年
	ピセンテ岬	//	昭和58年
	椿樹	//	//
	山	//	
	未来の太陽	//	
	三人の人物	アウレリア・ムニョス	
	襟付きケーブ	//	
	アベ・ブランカ	//	
	白い海	//	
	無題	//	
	庭	//	
	生垣	//	
	十字路	//	
	ドロ잉	//	
	テーブル	イヴ・クライン	
	無題	ゴバル・ダニョーゴ	2013年
	y-古代夢幻	池田満寿夫	平成5年
	y-頭龍	//	平成4年
	y-青笛川	//	平成6年
	浦島	//	
	緑陽	//	
	万葉人	//	
	舍利	//	
	動物の祭	//	平成3年
	炎の祭	//	//
	未来の太陽	岡本太郎	
	哄笑	//	昭和～平成
	ミツマタ備長炭オブジェ	保坂桂一	平成13年
	天童大黒童子	数内佐斗司	平成21年
	CARDBIRD I	ロバート・ラウシェンバーグ	
	CARDBIRD II	//	
	CARDBIRD III	//	
	CARDBIRD IV	//	
	CARDBIRD V	//	
	CARDBIRD VI	//	
	CARDBIRD VII	//	

分類	作品	作者	制作年
現代アート	カードバードドア	ロバート・ラウシェンバーク	1971年
	ティンカーベル 東京ディズニーランド	ヒロ・ヤマガタ	
	ノクターン	ル ホン	
	自然回帰	丁 紹光	
	アイズ・オブ・プレイ	//	
	生命	吉田堅治	
洋画	アメリカ人闘牛士 マリアノ・セバージョス	エウヘニオ・ルーカス・ベラス ケス	1840～1870年頃
	スピリアート夫人	カレル・ヴァン・ペル	1920年
	波	ギュスターヴ＝クールベ	1869年
	画家とモデル	ギュスターヴ・コラン	19世紀
	岸辺の小舟（ヴィル・ダブレー）	ジャン＝バティスト＝カミーユ・ コロー	1865～70年頃
	木を拾う人	//	1855年頃～75年
	川の女神の姿をした婦人の肖像	ジャン＝マルク・ナティエ	18世紀
	白いドレスを着た娘	トーマス・ロス	1803～28年
	洗濯をする農婦	フィンセント・ファン・ゴッホ	1885年
	ボースの風景	モーリス・ド・ヴラマンク	1940年
	海	//	1908年頃～55年
	ラ・フェルテ・ミロン城	モーリス・ユトリロ	1939年頃
	柳のある川の風景	ピエール＝オーギュスト・ルノ ワール	1874～76頃
	薔薇図	梅原龍三郎	昭和16年
	季節の鳥	脇田 和	昭和30年～平成10年頃
	椿	岸田劉生	昭和2年
	熊の湯雪景	熊谷守一	昭和12年頃～昭和52年
	暑中休暇の校庭	坂本繁二郎	大正4年
	千種百合	中川一政	昭和20年頃～平成3年
	粧える女	林 武	昭和28年
	海	藤島武二	昭和8年
	アフリカの花	三岸節子	昭和48年8月
	婦人像	宮本三郎	昭和36年
	木蓮のある静物	武者小路実篤	昭和2年頃～昭和51年
	栗とレンガと猿のこしかけ	山口薫	昭和25年頃～昭和43年
	昇る太陽	今井俊満	昭和36年
彫刻	天女の飛翔	北村西望	
	宝来	富永直樹	
	鯛	//	
	虎	//	
	清晨	//	
	春風に駆ける	//	
	吉兆	//	
	草原の春	//	
	昇竜自在	//	
	跳べよ春に	//	
	少女像	//	
	晴日	//	昭和59年
	鯉	//	昭和51年
	松寿	//	
	ヌクトマル	流政之	
	生命シリーズ～陽光から宇宙へ～	剣持忠	
	生命シリーズ～二つの再生～	//	
	殺すことのできない人間	フレデリック・フランク	
	少年・青い花	ズビネック・セカール	1957年
	半身像	//	1964年
	文字	//	
	胸像	//	
	無題	//	
	無題	//	

分類	作品	作者	制作年
彫刻	トルソ	ズビネック・セカール	
	柱	//	
	雄弁	エミール＝アントワヌ・ブルデル	1913～1923年
	自由	//	//
	勝利	//	//
	力	//	//
	果実のトルソ	//	1911年
	プライド	コンスタンティン・ブランクーシ	1905年頃
工芸	無題	武政健夫	平成19年
	無題	//	//
	虹	安達靖子	
	時間	//	

平成27年「春」

分類	作品	作者	制作年
日本画	海鳴り	小野具定	
	象潟雨情	石崎昭三	昭和48年7月
	雪原	//	昭和40年
	森煙烟	//	昭和51年
	二見浦	河野秋邨	
	年	杉山寧	昭和44年
	あめつち光あまねく	上野泰男	平成11年
	妙義	小泉智英	昭和55年
書	宝祚之隆天壤無窮	高橋泥舟	幕末（嘉永6～明治元年）
	鳴門	手島右卿	昭和62年
	会津ハーの歌	堀桂琴	昭和49年
	和歌「さびしさに…」	殿村藍田	昭和～平成10年
	我忘吾	熊谷守一	
	書簡	横山大観	大正初期
	詩	野口雨情	大正～昭和
	漢詩	伊藤博文	明治
	海舟先生座右銘	宮島詠士	明治～大正
	鳥栖書	仙崖	江戸後期
	和歌	松平定信（樂翁）	//
	和歌	伊達綱村	江戸前～中期
	猿丸集断簡	伝 藤原行成	平安中期
	習静	中林梧竹	
	七宝装飾刀	作者不詳	幕末～明治
	切付札二枚桐童具足(松平宗矩公着用)	//	江戸中期
工芸			

平成27年「夏」

分類	作品	作者	制作年
日本画	麗日	磯田長秋	昭和10年
	御点前	伊東深水	昭和30年頃
	わか葉頃	上村松園	昭和14年頃
	木陰唐子	//	昭和16年頃～24年
	白神花	大矢紀	昭和63年
	童子龍乗仙人図	尾竹国観	明治33年頃～昭和20年
	夏冬山水	川合玉堂	大正10年
	金鞍白馬	川端龍子	昭和25年頃
	天竺牡丹之図	岸田劉生	大正11年
	鐘馗	小杉放庵	大正15年
	たいざん木	小杉未醒	大正8年
	牡丹双鳩	児玉希望	大正～昭和46年

分類	作品	作者	制作年
書	夕映	小林古徑	大正～昭和
	柘榴小禽図	榊原紫峰	大正12～13年頃
	義経	佐多芳郎	昭和25年頃～平成9年
	婦去来辞(陶淵明)	下村観山	大正初期
	香富貴	竹内栖鳳	昭和5～10年頃
	花鳥図	堂本印象	昭和25年頃
	天覧盆栽図	富岡鉄斎	幕末～大正
	松芝萬年	//	大正5年
	魚	中川一政	大正9年頃～平成3年
	白衣観音	中村不折	昭和5年頃
	牡丹	前田青邨	昭和40年頃
	八ッ橋	牧進	昭和32～平成23年
	花菖蒲	松下和代	平成3～4年
	風神雷神図	棟方志功	昭和21年
	浅峰山水図	村瀬秋水	明治元年
	暮色	横山大観	大正中期～昭和初期
	森煙烟	石崎昭三	昭和51年
	峻峰	中村岳陵	大正元年頃～昭和44年
浮世絵	爪切り	歌川国宗	江戸後期(文政期)
	足洗い	歌川貞景	江戸後期(文政～天保)
	二美人	歌川貞秀	江戸後期～明治
	松風村雨	歌川豊春	江戸中～後期(明和～文化11年)
	湯上り美人	勝川春扇	江戸後期(寛政～文政9年頃)
	行燈美人	葛飾北明	江戸後期(文化～文政)
	帯を結ぶ遊女	国定	江戸後期
	雨乞小町	窪俊満	江戸後期(文化～文政3年)
	祭礼	作者不詳 (近世初期風俗画)	江戸時代
	吉田屋	作者不詳 (正徳・享保期諸画人)	江戸中期(正徳～享保頃)
	見立井手の玉川	作者不詳 (西村・石川派)	江戸中期
	若侍	作者不詳 (明和・安永期諸画人)	江戸中期(明和～安永)
	逢坂山	月岡雪斎	江戸中～後期(安永～天保10年)
	立ち美人	梅翁軒永春	江戸中期(宝永～宝暦)
	隅田川と美人	春木南湖	江戸後期
	立ち美人	文宝	江戸時代
	汐汲み	宗辰	江戸中期
書	楼	手島右卿	昭和56年
	神苑の朝	川合玉堂	昭和13年
	ひだ海老坂	熊谷守一	昭和50～51年
	山	高橋泥舟	明治元年頃～36年
	漢詩「黒風萬騎巻…」	比田井天来	明治30年頃～45年
	焚香獨坐長松下	丹羽海鶴	明治30年頃～昭和6年
	漢詩「寒煙沙月…」	日下部鳴鶴	明治13年頃～大正11年
	文章千古事	徳川慶喜	江戸後期(弘化3年)
	天寿	市河米庵	幕末(安政4年)
	寿山	//	幕末(安政4年)
	五言絶句	池大雅	江戸中期
	書簡	葉鳳毛	清代(雍正～乾隆年間)
	「古への代々の文を…」	賀茂真淵	江戸中期(明和6年)
	和歌散書	後深草天皇	鎌倉中～後期
	杜甫の詩	貫名崧翁	江戸後期(安政5～文久3年)

平成27年「秋」

分類	作品	作者	制作年
書	「をぐら山…」	安東聖空	昭和初期

分類	作品	作者	制作年
書	漢詩「藜杖全吾道」	池大雅	江戸中期（享保15～安永5年）
	漢詩「花柳春至盛」	市河米庵	江戸後期
	「用ありといへども…」	大田蜀山人	江戸中～後期（明和4～文政6年）
	四季の歌（冬）	岡山高蔭	大正～昭和20年
	漢詩「落花水暖千…」	勝海舟	幕末～明治32年
	瀟灑風流	川谷尚亭	明治39年頃～45年
	松島瑞巖寺葡萄木彫賛歌	島崎藤村	明治30～昭和18年
	和歌	土井晩翠	明治31年頃～大正頃
	高明	手島右卿	昭和27～62年
	漢詩「新霽初之夕…」	中林梧竹	明治時代
	藤原定家自筆書状	藤原定家	平安末期～鎌倉初期
	消息	松尾芭蕉	江戸前期
	南山壽	松林桂月	大正～昭和38年
	寿星拝日讃	皆川淇園（愿）	江戸中期
	漢詩	頼山陽	江戸後期（文政10年）
工芸	太刀 銘 康次	康次	鎌倉時代（建暦頃）

〈能舞台〉

能・狂言は約700年もの間守り継がれてきた日本の伝統芸能である。能舞台、能面、能装束などの展示や解説を通して、目に見えない世界や幽玄の世界をも表現する能の、深奥で研ぎ澄まされた芸術性や、人間の本質を突く喜劇 狂言の面白さを伝える。

また、能・狂言に限らず、能舞台上で日本の伝統芸能を披露することもある。

特別展示

世界遺産 富士 ～北斎・広重・大観 他～

開催期間

平成26年2月27日（木）～6月3日（火）

作品点数

34点

後援

岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（一社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示概要

富士は古くから信仰の山とされ、その荘厳な姿が和歌や絵画の主題として盛んに取り上げられるなど、日本独特の芸術文化を育んできた。江戸時代には登山と信仰が一体となった富士講が流行し、葛飾北斎の『富嶽三十六景』に代表される浮世絵は、ゴッホら海外の芸術家にも多大な影響を及ぼした。こうしたことから富士山は平成25年に「信仰の対象と芸術の源泉」として、世界文化遺産に登録されている。

開館15周年の特別展として、富士山の世界文化遺産登録を祝し、当館所蔵品の中より北斎、広重、大観をはじめとする富士が描かれた作品を展示した。



展示の様子





展示作品

分類	作品	作者	制作年
日本画	沼津千本松原	池田遙邨	大正～昭和
	富士	小川芋銭	大正11年頃
	葛飾早春	鎭木清方	
	朝霧	西藤哲夫	昭和60年
	冬晴	竹内栖鳳	昭和10年頃
	風景	中平南海	
	富嶽神鐘	平福百穂	大正14年
	三保之不二山	横山大観	昭和28年頃
	乾坤耀く	//	昭和18年
	不盡山	//	大正9年
	不二霊峰	//	昭和11年頃
浮世絵版画	東海道五十三次（川崎・六郷渡舟）	歌川広重	江戸後期（天保4年頃）
	東海道五十三次（箱根・湖水図）	//	//
	東海道五十三次（原・朝之富士）	//	//
	東海道五十三次（吉原・左富士）	//	//
	東海道五十三次（由井・薩た嶺）	//	//
	東海道五十三次（舞坂・今切真景）	//	//
	名所江戸百景（両ごく回向院元柳橋）	//	幕末（安政3～5年頃）
	名所江戸百景（する賀てふ）	//	//
	名所江戸百景（目黒新富士）	//	//
	名所江戸百景（深川萬年橋）	//	//
	名所江戸百景（神田紺屋町）	//	//
	名所江戸百景（鉄炮刈稻荷橋湊神社）	//	//
	富嶽三十六景（凱風快晴）	葛飾北斎	江戸後期（天保2年頃）
	富嶽三十六景（神奈川沖浪裏）	//	//
	富嶽三十六景（山下白雨）	//	//
	富嶽三十六景（尾州不二見原）	//	//
	富嶽三十六景（東都浅草本願寺）	//	//

分類	作品	作者	制作年
浮世絵版画	富嶽三十六景（甲州石班沢）	葛飾北斎	江戸後期（天保2年頃）
	富嶽三十六景（遠江山中）	//	//
	富嶽三十六景（甲州三坂水面）	//	//
工芸	雲上不二のれん	芹沢銈介	昭和42年
	赤富士のれん	//	//
	富士と雲のれん	//	

豪放磊落な俳人 加藤郁乎展

開催期間

平成26年2月27日（木）～6月3日（火）

作品点数

約29点

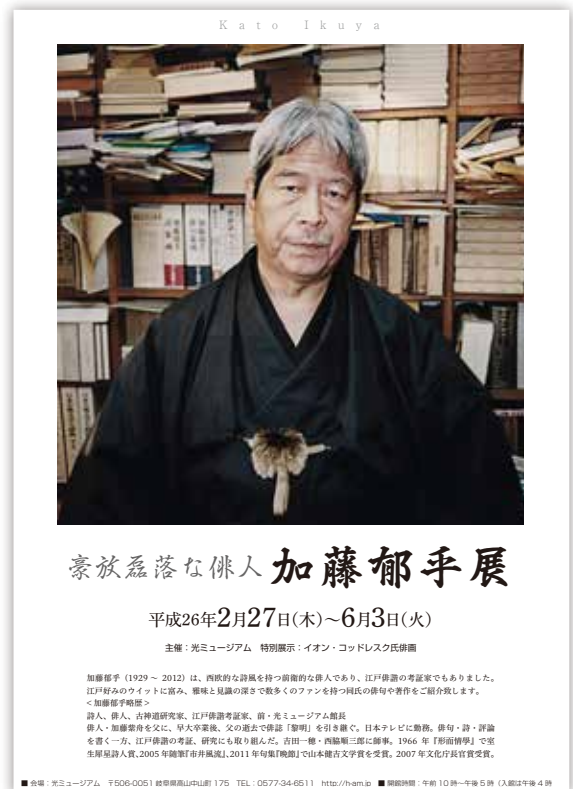
後援

岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（一社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示概要

1929年に東京で生まれた加藤郁乎は、早稲田大学文学部演劇科卒業後、俳人の父・加藤紫舟の逝去で俳誌「黎明」を主宰する事となり、日本テレビに勤務しながら俳句・詩・評論を書く一方、江戸俳諧の考証、研究にも取り組んだ。また、澁澤龍彦や松山俊太郎、池田満寿夫など文学・芸術関係者との交友でも知られている。

吉田一穂・西脇順三郎に師事し、1966年『形而情學』で室生犀星詩人賞を受賞。1973年より文筆著述に専念し、2005年随筆『市井風流』、2011年句集『晩節』で山本健吉文学賞を受賞。2007年には文化庁長官賞を受賞した。2006年から光ミュージアムの館長を務めた加藤郁乎の3回忌にあたり、故人を偲び、西欧的な詩風を持つ前衛的な俳句、江戸好みのウイット、雅味と見識の深さ等で数多くのファンを持つ加藤郁乎文学を紹介した。



展示の様子





展示作品

分類	作品	作者
直筆俳句	北に他郷の黒つぐみふるさと父(パール)	加藤郁乎
	二十代で詩人それから越境する他人	//
	句とは何か概念の小をんなの青空	//
	霏々としてあととりはない番外の灰かぐら	//
	情事サンドは川端やなぎこの水を見よ	//
	りらの斥候がド・クインシイ家の天火に焦げる	//
	胡桃に棲まるカトウノヴィッチ・イクヤーノフの春	//
	$E=mc^2$ この霧函に優曇華を憑けよう	//
	遺書にして艶文王位継承その他無し	//
	六月の馬上にのこる鞭の音	//
	青葉の一撃EDDAは投げり尻げり	//
	助情よすこしMatinee…マレルブがやってくる	//
	火は六月のフラミンゴ混血を煮つ	//
	このまま死ねば宵っぱりの恐龍で春の日	//
	日は歸去来日は智慧の樹の望郷	//
	海泡石のパイプ以上の前置詞があらうか	//
	ふらここのむあみだぶつはちにんこ	//
	この山の手の道をしへ大力トーたりき	//
	雨季来りなむ斧一振りの再會	//
	枯木見ゆ作品こはしつゝゆける	//
	三夕やさいふをさがす秋の暮	//
	よのなかは飲み宿禰と月の顔	//
	冬木この一回性の森を成し	//
	牡丹ていっくに蕪村すること二三片	//
	言霊に裏おもてあり五六月	//
	じれ酒に色は山吹忍び駒	//
	月の輪が豊草原の葦を吹く	//
	大川は大人の川や川開き	//

エジプトvs縄文

開催期間

平成26年6月12日（木）～9月7日（日）

作品点数

138点

後援

岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示目的

紀元前4000年頃、ナイル河畔の肥沃な大地に興ったエジプト文明は、およそ1000年後には統一国家としての体裁を整え、同時に独特な宗教観・死生観を確立した。自然の恵みを受けて豊かな生活が保障されていた古代エジプトの人々は3千年もの長い間、独特な宗教観や造形美を持続させ、洗練された文化を育んだ。

一方、日本では紀元前13000年頃から縄文時代が興り、各地の山や海の恵みを受けて1万年もの長きに渡り繁栄した。土器や土偶、石器等に縄文人の独特な宗教観・死生観が表われている。

本展では、同時期に遠く離れた地で栄えたエジプトと縄文の文化を比較・紹介し、その魅力を探ることを目的とした。

展示概要

エジプトと縄文の歴史を、実物資料と年表・地図・建造物写真・衣食住や祭りの復元イラスト・解説と共に紹介し、それぞれの気候・風土の中で育まれた文化の特徴や宗教観を比較した。体験コーナーではエジプトや縄文のレプリカや土器片、楽器に触れたり、それぞれの復元衣装を着て写真撮影をするコーナーを設置した。スタンプラリーやクイズラリーも実施した。

展示の様子





展示作品

資料名	出土地	時代
渦巻き文様双耳壺	エジプト	先王国時代
石製容器	//	初期王朝時代
ジェセル王のタイル	//	古王国時代 第3王朝
二本指形護符	//	第一中間期
ファイアンス製カバ像	//	中王国時代
人物立像	//	中王国時代～
王像頭部	//	中王国時代～ブトレマイオス朝
アラバスター製容器	//	新王国時代 第18王朝
軟膏用スプーン	//	新王国時代 第19～22王朝
奉納板	//	第三中間期
オシリス神像	//	末期王朝時代
三神像護符	//	末期王朝時代 第30王朝～ ブトレマイオス朝
ヒヒ形護符	//	末期王朝時代～ブトレマイオス朝
呪術板	//	ブトレマイオス朝
呪術板	//	//
聖魚像(オキシリンコス)	//	//
セラピス神胸像	//	//
王彫像頭部	//	ブトレマイオス朝初期
石皿	//	ローマ時代
トト神像	//	
青銅製コブラ像	//	
ソカル神像	//	
セクメト女神像	//	
方形彫像	//	
奉納運搬者浮彫	//	末期王朝時代
ブラックトップ壺	//	先王朝時代

資料名	出土地	時代
彩文土器	エジプト	先王朝時代
ブドウ形装飾品	//	
石製刻文鉢	//	
アラバスター製容器	//	新王国時代
化粧容器	//	新王国時代第20王朝～第三中間期
化粧ペン	//	新王国時代
象嵌髪形モザイクガラス	//	プトレマイオス朝
鳥形化粧パレット	//	先王朝時代ナガタ期
王椅像	//	新王国時代
ウジャト眼形護符	//	末期王朝時代
香油壺	//	
オシリス神像	//	
セクメト形ウシャブティ	//	
ホルス神護符	//	
クヌム神像	//	
有翼スカラベ型護符	//	
礼拝者浮彫	//	新王国時代 第19王朝
彫像腕	//	//
彫像左足	//	プトレマイオス朝
人物浮彫	//	新王国時代
青銅製神像	//	
ホルス神を抱くイシス女神像	//	末期王朝時代～プトレマイオス朝
子供のホルス神像	//	//
彩文土器	//	先王朝時代
ブラックトツブ壺	//	//
土偶	//	
木製足	//	中王国時代
ウシャブティ	//	新王国時代～末期王朝時代
木製コブラ	//	末期王朝時代
パタイコス像	//	
護符	//	
ビーズ製マスク	//	末期王朝時代～プトレマイオス朝
ウシャブティ	//	
アラバスター製高杯	//	
青銅製トト神像	//	
セクメト女神像	//	
聖魚像(オキシリンコス)	//	
青銅製バステト像	//	
アラバスター製容器	//	初期王朝時代
男性頭部像	//	
勝坂式土器	関東	縄文中期前半
翡翠製垂飾		縄文中期
加曽利E式土器	関東	縄文中期後半
十腰内1式土器	東北	縄文後期前半
動物形土製品		縄文後期
山形土偶	関東	縄文後期中～後半以降
みみずく土偶	//	縄文後期後半
注口土器	東南北部	//
大洞C2式土器	青森県	縄文晩期中頃
遮光器土偶	//	縄文晩期前半
大洞BC式香炉形土器	東北北部	//
石剣	東日本～九州	縄文晩期
安行式土器	茨城県	//
馬高式土器	北陸から東南北部	縄文中期
岩偶		縄文
石鏃	関東	縄文晩期
双口土器		縄文後期前半
大洞BC式注口土器		縄文晩期前半

資料名	出土地	時代
きのご形土製品		縄文
大洞A'式皿形土器	東北	縄文晩期末
大洞BC式皿形土器	//	縄文晩期前半
石皿		縄文
骨角製ヤス		//
浮子		//
敲石		//
磨石		//
土偶		//
耳飾り付き土偶		縄文後期
土製耳飾り		縄文晩期
翡翠製垂飾		縄文中～後期
貝輪		縄文
けつ状耳飾り		縄文前期
土偶・板状土偶		縄文
石棒		縄文後～晩期
土鈴	中部地方	
独鈷石		縄文後期
円筒下層c式土器	岩手県～青森県	縄文前期後半
加曽利E式土器	関東地方	縄文中期後半
磨製石斧	関東	縄文中期
石槍	群馬県	
縦型石匙		縄文
横型石匙		縄文中～晩期
黒曜石製石匙・石鏃		縄文
妊婦土偶		縄文後期
馬高式土器	新潟県	縄文中期
土偶		縄文
岩偶		//
土版・岩版		//
遮光器土偶		//
ミミズク土偶		//
山形土偶		//
土偶		//
深鉢		縄文中期頃
大洞A式鉢形土器	東南北部	縄文晩期後半
大洞C2式鉢形土器	//	縄文晩期中頃
土錘・石錘		縄文後～晩期
ナイフ形石器		縄文
骨角製匙		//
骨角製鋸頭		縄文～弥生
骨針		縄文
横型石匙		//
有孔土製品		縄文晩期
ボタン状石製品	秋田県	//
大洞BC式注口土器	東北	縄文晩期前半
大洞BC式注口土器	//	//
大洞C1式壺形土器	東南北部	縄文晩期中頃
円筒土器		縄文前期
弓箭		縄文
環状石斧		//
石冠	関東～中部	縄文後～晩期
板状土偶	東南北部	縄文中期
遮光器土偶	東北	縄文後～晩期

開館15周年 光ミュージアム 日本画名品展 ～北斎、大観、玉堂、松園 他～

開催期間

平成26年9月13日（土）～12月9日（火）

作品点数

30点

後援

岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示概要

開館15周年記念の特別展として、近年充実してきたコレクションの中から北斎、大観、松園、菱田春草、川合玉堂、鍋木清方など日本画の秀作を約30点展示した。



展示の様子





展示作品

作品	作者	制作年
美人之図	上村松園	昭和12年
権八小紫	鎗木清方	昭和初期
晴日	伊東深水	昭和16～17年
竜神図	河鍋晩斎	明治初期
観音	安田靫彦	大正14年頃
四季美人図	上村松園	明治25年
住吉ものがたり	松岡映丘	大正～昭和13年
月下漁夫図	谷文晁	江戸後期（寛政8年）
山村積雪	川合玉堂	明治末頃
山居	小杉放庵	昭和8年
蓬萊群鶴	川合玉堂	明治20年頃～昭和32年
蓬萊山	横山大観	昭和14年頃
帰牧	菱田春草	明治35年
風	東山魁夷	昭和15年
牡丹睡猫	速水御舟	大正15年
牡丹図	村上華岳	大正10年
飛天妃図	棟方志功	昭和33年
武将	前田青邨	昭和5年頃
神田祭	鎗木清方	昭和10～15年頃
花の山	//	昭和初期
菜果図	小林古徑	
竹林	横山大観	昭和29年頃
渡舟図	菱田春草	明治33年頃
樹間の朝	福王寺法林	昭和28年頃～平成23年
紅椿	奥村土牛	昭和30年頃
富貴盤	川端龍子	昭和33年
巖島	前田青邨	大正6年頃
麒麟図	富田溪仙	大正14年
日 龍 月	葛飾北斎	江戸後期（寛永10年～文化元年頃）
月夜雁を聴く女	歌川広重	江戸後期（文政～安政5年）

桜 さくら サクラ ～大観、玉堂、松園、清方、加山又造 他～

開催期間

平成27年2月27日（金）～6月9日（火）

作品点数

38点

後援

岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示概要

日本において花といえば「桜」であり、その姿は古来より人々に愛されてきた。春の陽に咲き誇る桜は、美しさと繁栄、そして限られた生命の象徴であり、散り際の潔さは大和魂の規範ともされる。日本人の桜を愛でる気持ちは、多くの文学・芸術に反映されてきた。

美術館でお花見をお楽しみいただこうと、当館所蔵の浮世絵や近・現代の日本画の中に咲く、様々な桜をご覧ください。



展示の様子





展示作品

分類	作品	作者	制作年
日本画	行く春	横山大観	明治33年
	嵐山	//	
	春光	//	昭和10年頃
	夜桜	加山又造	昭和57年
	炫奏舞	隅谷百世	
	紙雛絵	高森碎巖	明治・大正
	旅愁	佐藤太清	昭和61年
	田園の朝松籟を聞く	児玉希望	昭和5年頃
	舞妓	寺島紫明	大正～昭和50年
	おくの細道	小杉放庵	昭和15年
	三美人之図	上村松園	明治41年
	桜花咲く	石崎昭三	
	古城春夕	川合玉堂	昭和17年
	京鹿子娘道成寺 (9)	鍋木清方	昭和3年、5月
	京鹿子娘道成寺 (13)	//	//
	花の山	//	昭和初期
浮世絵	桜花美人	門井掬水	
	桜下遊宴	作者不詳 (初期肉筆浮世絵諸画人)	江戸前～中期
	見立源氏物語若紫	作者不詳 (北尾派)	江戸中～後期 (宝暦12～天保)
	桜下官女	作者不詳 (友禅染)	江戸
	円窓の三美人	鳥園斎 栄深・島 君山	江戸後期 (寛政～享和頃)
	桜下美人	宮川一笑	江戸中期
	向島春遊美人	歌川芳秀	江戸後期～明治
	黒木壳	喜多川藤麿	江戸後期
	花吹雪	三島上龍	江戸後期 (天保頃)
	猿猴のたわむれ	常高 (川又派)	江戸中期
	歌舞伎図	鳥居忠雅	昭和元年頃～昭和45年
	渡月橋	二代歌川広重	江戸後期 (文政～安政5年)

分類	作品	作者	制作年
浮世絵	遊興	牧墨僊（鳥山・喜多川派）	江戸後期（寛永～文政）
	廓内遊興	作者不詳（宮川派）	江戸中期
	吉原仲之町春景	作者不詳（西村・石川派）	//
	桜下二美人に曳かれる布袋	//	//
	清水の舞台から飛びおりる女	作者不詳（川又派）	//
工芸	桜	今井俊満	昭和63年
	桜図	//	平成元年
	桜図（着物）	//	昭和63年
	雲錦大鉢	北大路魯山人	昭和16年
	桜	須田剋太	昭和58年

地中海世界展 ～ギリシア、ローマ、エジプト 他～

開催期間

平成27年6月18日（木）～9月8日（火）

作品点数

84点

後援

岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜県博物館協会、高山市、高山市教育委員会、飛騨市、飛騨市教育委員会、下呂市、下呂市教育委員会、（社）高山市文化協会、高山商工会議所、Hits FM

展示目的

地中海はユーラシア大陸とアフリカ大陸に囲まれた広大な内海として知られている。この海の周辺では古代からメソポタミア・エジプト・ギリシア・ローマなど魅力ある文明が誕生し、交流しながら数千年に渡って繁栄を遂げてきた。東洋と西洋を結ぶ地中海地域の文明を比較・紹介し、偉大な遺産を残し現代文明の基盤となった地中海世界の果たした役割とその魅力を紹介することを目的とした。

展示概要

地中海地域で繁栄したメソポタミア・エジプト・ギリシア・ローマ・フェニキア・カルタゴなどの古代文明を、考古資料と年表・衣食住の特徴・交易・宗教観や巨大建築物など文明の概要を記した展示パネルで紹介し、それぞれの特徴や類似点の他、交流によって発展したことなどを学べるようにした。体験コーナーでは各文明の衣装を実際に着て写真撮影をしたり、交易品や楽器を触って比べるコーナーを設置した。他には各文明の神話や建築物を紹介する飛び出す絵本や、持ち帰りのできるペーパークラフトも用意した。スタンプラリーやクイズラリーも行った。

展示の様子





展示作品

作品	出土地	制作年
スプーン飾り	エジプト	新王国時代 第19～22王朝
石皿	//	ローマ属領時代
ブラクトップ壺	//	先王朝時代 ナカーダⅠ～Ⅱ期
渦巻き文様双耳壺	//	先王国時代
鳥形化粧パレット	//	先王朝時代 ナガタ期
ジェセル王墓の壁面装飾タイル	//	古王国時代 第3王朝
男性像頭部	//	
人物座像	//	中王国時代以降
王椅像	//	新王国時代
奉納板	//	第三中間期
王彫像頭部	//	プトレマイオス朝初期
ウシャブティ	//	新王国時代～末期王朝時代 第21～23王朝
ウシャブティ	//	
ビーズマスク	//	末期王朝時代～プトレマイオス朝
セラピス神胸像	//	プトレマイオス朝
オシリス神像	//	末期王朝時代
ホルス神を抱くイシス女神像	//	末期王朝時代～プトレマイオス朝
イシス女神形護符	//	プトレマイオス朝
ムウト女神形護符	//	//
呪術板	//	//
呪術板	//	//
三神像護符	//	末期王朝時代（第30王朝）～プトレマイオス朝
セクメト女神像	//	
青銅製トト神像	//	
ファイアンス製カバ像	//	中王国時代
青銅製コブラ像	//	
有翼スカラベ型護符	//	
カノボス壺	//	

作品	出土地	制作年
ラピスラズリ印章指輪	アフガニスタン	ササン朝ペルシア
赤絵式台皿	南イタリア アブリア	
アンフォラ	イタリア	エトルリア文化
把手付き壺	南イタリア	ドゥーニ文化
少年像頭部	//	ヘレニズム時代
赤絵式水差し	南イタリア アブリア	
アラバストロン	ギリシア～イタリア	
赤絵式スキュフォス	イタリア	エトルリア文化
アリュパロス	//	
黒絵式三足土器	//	
赤絵式オイノコエ	南イタリア アブリア	B.C.4世紀
青銅製人物文様指輪	イラン高原 シヴィエ	
青銅製円形ブローチ	ギリシア スキュロス島	
石偶	ギリシア キクラデス	
幾何学文様オイノコエ	ギリシア キプロス	鉄器時代～幾何学文時代Ⅲ期
白貝製首飾り	//	
黒絵式クラテル	ギリシア	
キュリクス	ギリシア～イタリア	
女神像頭部	ギリシア	
飾り壺	ギリシア～イタリア	
紅玉人物文様印章	シリア	ヘレニズム時代
ガラス製腕輪	//	
ガラス製腕輪	//	ローマ帝国時代
男女神像板飾り	北シリア	
アンフォラ型瓶	地中海地域	
青銅製牡鹿像	トルコ アンカラ	
トンボ玉	チュニジア カルタゴ～ フェニキア	
魚型ガラス製品	フェニキア	
ロゼッタ文様レンガ	ペルシア	アケメネス朝ペルシア
ファイアンス製ランプ	//	
ファイアンス製ランプ	//	
楔形文字付きレンガ	メソポタミア	新バビロニア
土製ランプ	ローマ	
土製ランプ	//	
土製ランプ	//	
土製ランプ	//	
土製ランプ	//	
アラバスター製高杯	//	
アンフォラ型瓶	東部地中海	ローマ時代
ガラス瓶	//	ローマ帝国時代
ガラス製オイノコエ	//	//
ガラス瓶	//	//
トンボ玉ネックレス	地中海沿岸	//
トンボ玉ネックレス	//	//
トンボ玉ネックレス	//	//
青銅製壺	東部地中海	//
青銅製天使像	地中海地域	//
女神像	東部地中海	ヘレニズム時代
青銅製渦巻文様ブローチ	中央ヨーロッパ	
ファイアンス製羊像	中東	
ハーブを弾く石偶	キクラデス諸島	
壺		
石製ビーズ		
土偶		
土偶		
アンフォラ		



展示作品

分類	作品	作者	制作年
日本画	晴れ間	上村松園	昭和14～15年頃
	紫式部図	//	大正4～昭和4年頃
	春秋屏風	小野竹喬	大正～昭和54年
	紅葉	鍋木清方	昭和22年頃
	立田の錦	//	昭和元年頃～47年
	湖山月明	川合玉堂	昭和2年
	雲錦鉢図	北大路魯山人	昭和10年代
	朝	久保嶺爾	平成3年
	飛騨真秋	//	平成2年
	誰ヶ袖の図	作者不詳	桃山～江戸初期
	聖観自在菩薩	佐多芳郎	昭和59年
	清遊	下田義寛	昭和60年
	四季草花図屏風	宗達工房	江戸前期（寛永7～17年頃）
	月下漁夫図	谷文晁	江戸後期（寛政8年）
	猛虎	中原南溪	江戸後期
	秋趣	橋本雅邦	明治10年頃
	瀑布(流動)	菱田春草	明治34年
	紅葉図	村上華岳	大正5年
	竜田川	森田曠平	昭和46年
	秋の月	横山大観	明治33年頃
	月下の雁	//	大正2年頃
肉筆浮世絵	菊を見る女	歌川国久	江戸後期（享和～文化）
	浅間山	歌川広重	江戸後期（文政～安政5年）
	月夜雁を聴く女	//	江戸後期（天保12～安政5年）
	燈台	葛飾為直	江戸後期
	風景四季図(秋)	葛飾北斎	江戸後期（天保3年）
	月下二美人	花遊斎紫江女	明治後期
	月を見る美人	北尾重政	江戸後期（天明頃）
	萩と女	喜多川月麿	江戸後期(享和頃)
	月下美人	作者不詳（在印）	江戸時代
	縁先鏡持ち美人	作者不詳(奥村派)	江戸中期
	立ち美人	作者不詳（正徳・享保期諸画人）	江戸中期（正徳～享保頃）
	伊勢物語	作者不詳(菱川派)	江戸初期
	秋の月	月岡雪斎	江戸中～後期（安永～天保10年）
	紅葉	//	//
	時雨西行	古山師胤	江戸前～中期
	女の園図	宮川長春	江戸中期（宝永～寛延頃）
	紅葉の下	吉原真龍	江戸後期（天保～弘化）
	紅葉賀	今井俊満	平成元年
	龍田川	//	昭和61年
	秋草図（着物）	//	昭和63年
浮世絵版画	東海道五十三次（沼津・黄昏図）	歌川広重	江戸後期（天保4～5年頃）

分類	作品	作者	制作年
浮世絵版画	名所江戸百景（京橋竹がし）	歌川広重	幕末（安政3～5年頃）
	名所江戸百景（上野山内月のまつ）	//	//
	名所江戸百景（猿わか町よるの景）	//	//
	名所江戸百景（請地秋葉の境内）	//	//
	名所江戸百景（木母寺内川御前裁畑）	//	//
	名所江戸百景 （真間の紅葉手古那の社継はし）	//	//
工芸	色絵紅葉文木葉形鉢	北大路魯山人	大正12年頃～昭和34年
	雲錦大鉢	//	昭和16年

企画展示 美術部門

木村盛康作陶展

開催期間

平成26年9月21日（日）～12月9日（火）

作品点数

43点

展示概要

耀変天目の漆黒の釉一面に星のように浮かぶ斑紋は、光を受けると青の濃淡が際立ち、茶碗の中に宇宙が広がっているかのようなのである。また油滴天目は、黒釉地全体を水に喩えるところに油の滴が無数に浮いているようで、夜空を埋め尽くす星にも見える。中国の南宋時代に作られ、日本の茶人たちを魅了した耀変・油滴天目を、現代によみがえらせている木村盛康氏の作品43点を展示した。

展示の様子





展示作品

作品	作者
天目宙花入	木村盛康
天目宙方壺	//
天目釉方壺	//
天目黄山扁壺	//
天目極星扁壺	//
禾目碧天目皿	//
赫天目別雷大皿	//
禾目碧天目方壺	//
赫天目別雷方壺	//
天空大皿	//
天目宙大皿	//
天空香炉	//
天空花入	//
天空方壺	//
天空香炉	//
天空花入	//
天目極星方壺	//
天目蒼空方壺	//
天目宙深鉢	//
天目宙器	//
天目宙鉢	//
天目アンドロメダ器	//
赫天目別雷器	//
天目宙器	//
天目アンドロメダ器	//
天目宙茶盃	//
窯変禾目天目茶盃	//
天空蒼空茶盃	//
天空茶盃	//
松樹天目茶盃	//
天目アンドロメダ茶盃	//
天目宙茶盃	//
天目アンドロメダ茶盃	//
天空茶盃	//
天目禊茶盃	//
赫天目別雷茶盃	//
天空茶盃	//
窯変油滴天目茶盃	//
天目黄山茶盃	//
天目黄山茶盃	//
松樹天目壺	//
天目宙花入	//

作品	作者
天目アンドロメダ水指	木村盛康

企画展示 飛騨部門

地球温暖化と生物多様性展

開催期間

平成26年2月27日(木)～12月9日(火)

展示目的

世界で様々な取り組みがされている地球温暖化対策と生物多様性との関連について取り上げ、生物相互の繋がりにから地球温暖化が生物多様性に与える影響までを解説する。
また、親子で自然に触れ合うことを促すことで環境を守ってゆくことの大切さに関心をもっていただくことを目的とする。

展示概要

地球は誕生してから46億年が経過し、現在の様な人間の生きてゆける環境になった。
しかし、そこに安寧に住する私達が起こした(地球)環境の変化によって、多くの生き物が絶滅の危機に直面している。
また、地球温暖化により地球の温度が上昇、異常気象が頻発し、その温暖化対策のために世界各国では温室効果ガスなどの削減対策が行われている。
そこで地球環境に負荷を与えない生活へと変えてゆくことの大切さを提言し、併せて再生可能エネルギーについての解説も行った。
更に、フィールドワークに出ることを促す写真やグッズの他、ハンズオンでは球果の展示も行った。

監修・後援

監修者 岐阜県博物館協会顧問 小野木三郎

協力 環境省 国際サンゴ礁・モニタリングセンター、やんばる野生生物保護センター

展示資料

- ・自然とのふれあい写真一覧
- ・絵手紙27枚
- 自然散策グッズ
 - 双眼鏡、ルーペ、カメラ、フィールドノート、三色ペン、地図、ポーチ、図鑑各種、クリップボード、コンパス、絵手紙セット
- ハンズオン資料
 - マツボックリ、ミズナラのどんぐり、アベマキのどんぐり、コナラのどんぐり、マテバシイのどんぐり、スダジイのどんぐり、クリの実、シイの実、まつぼっくり(ドイツトウヒ・エゾマツ・アカマツ・アメリカのマツ・カラマツ・モミ)
- その他
 - 立体地図
- 参考資料

書籍

展示の様子



化石燃料と再生可能エネルギー展

開催期間

平成26年7月3日（木）～9月30日（火）

展示目的

東北地方太平洋沖地震時の事故により日本全国の原子力発電所が停止された。しかし、代替発電に化石燃料が大量に消費されるようになり、再生可能エネルギーの寄与はほとんどなく、期待されたエネルギー源の転換も見られなかった。そこで従来の化石燃料と新エネルギーの現状を解説し、各エネルギーの問題点と普及状況の展示を行った。

展示概要

来館者には先ず化石燃料と再生可能エネルギーがどのようなものであるのかを認識頂けるように、説明を左右に配列し、中央に各エネルギーの占有率を一目で見えていただけるよう、円グラフで表示をした。また、その下方に問題点と普及状況の展示を行った。

また、自分自身で電気を起すことのできる体験用展示を配置した。

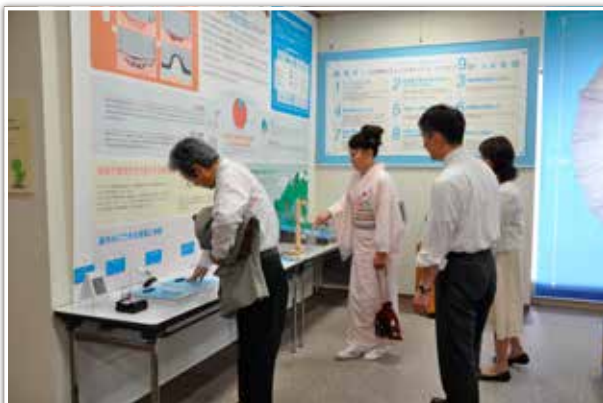
展示資料

- ・ 風力発電(モーター比較)モデル 2点
- ・ 風力発電(プロペラ比較)モデル 3点（電圧計付き）
- ・ ペルチェ素子発電モデル 1点（電圧計付き）
- ・ 圧電素子発電モデル 1点（電圧計付き）
- ・ 水力発電モデル 1点

配布物

- ・ 風力発電実験用手引書
- ・ 風力発電実験モデル用ペットボトルキャップ

展示の様子



再生可能エネルギーとその未来展

開催期間

平成27年7月2日（木）～12月8日（火）

展示目的

再生可能エネルギーとともに水素エネルギーの活用について、その現状と普及への道のりを解説する。

展示概要

前年に続き再生化のエネルギーの現状と普及状況を新しいデータにて表示した。

また、トヨタ自動車のミライが発売されたことやオリンピックの選手村を水素タウンにするといった政府発表があるなか、今後の「日本のエネルギー活用」の方向性として水素エネルギーに注目し、水素エネルギー社会への移行をテーマに展示を行った。

展示資料

- ・ 太陽光パネルと蓄電システム（電気は体験用展示物に使用）
- ・ 水の電気分解モデル 1点
- ・ 水素と酸素の可逆性実験「ミライの車を走らせてみよう」モデル 1点
- ・ 水力発電モデル 1点
- ・ 営農ソーラーシェアリング用太陽光パネル

展示の様子



教育普及活動

出張美術館

実施にあたって

子供たちが、幼少の頃から美術館・博物館に行き、本物に触れるということは欧米では決して珍しくない。当館では小・中学校に美術品を持ち込んで、児童・生徒に本物に触れさせ、優れた作品から感動・喜びを体験してもらおうと出張美術館を開催している。

文化庁のモデル事業として始まったこの出張美術館も今年（H27）で13年目。授業数が減る中、図工・美術の鑑賞教育の支援として学校と連携して行い、10月～12月の約3ヶ月間に下記の通り実施した。出張美術館を通じて子供たちが芸術文化と触れ合い、和やかな心と豊かな感性を持った人間に成長することを願うと共に、交通のデメリットを少しでも解消し、多くの人々に美術鑑賞をしていただきたいと考えている。

平成26年度

小学校

日付	学校名	人数（クラス数）
10/1（水）	高山市立南小学校	80名（2クラス）
10/2（木）	高山市立西小学校	36名（1クラス）
10/14（火）	高山市立山王小学校	105名（3クラス）
10/15（水）	高山市立新宮小学校	73名（2クラス）
11/5（水）	高山市立国府小学校	77名（2クラス）
11/6（木）	高山市立清見小学校	24名（1クラス）
11/7（金）	高山市立北小学校	133名（4クラス）
11/10（月）	高山市立宮小学校	28名（1クラス）
11/25（火）	高山市立花里小学校	47名（2クラス）
11/26（水）	高山市立江名子小学校	38名（1クラス）
11/26（水）	高山市立三枝小学校	30名（1クラス）
12/1（月）	高山市立久々野小学校	32名（1クラス）
12/2（火）	高山市立丹生川小学校	59名（2クラス）
12/11（木）	高山市立東小学校	97名（3クラス）
12/15（月）	高山市立荘川小学校	12名（1クラス）
合計	15校	871名

中学校

日付	学校名	人数（クラス数）
10/7（火）	高山市立朝日中学校	39名（2クラス）
10/21（火）	高山市立東山中学校	120名（4クラス）
11/27（木）	高山市立松倉中学校	179名（5クラス）
12/2（火）	高山市立丹生川中学校	56名（2クラス）
12/10（水）	高山市立日枝中学校	180名（6クラス）
12/16（火）	高山市立中山中学校	120名（4クラス）
12/17（水）	高山市立宮中学校	26名（1クラス）
合計	7校	720名

小学校作品リスト

資料名	作者	備考
東海道五十三次『平塚（縄手道）』	歌川広重	浮世絵版画
東海道五十三次『蒲原（夜之雪）』	//	//
東海道五十三次『日坂（佐夜ノ中山）』	//	//
東海道五十三次『白須賀（汐見阪図）』	//	//
東海道五十三次『水口（名物干瓢）』	//	//
東海道五十三次『京師（三条大橋）』	//	//

中学校作品リスト

資料名	作者	備考
美人あわせ	溪斎英泉	肉筆浮世絵
名所江戸百景『永代橋佃し満』	歌川広重	浮世絵版画
名所江戸百景『日暮里寺院の林泉』	//	//
名所江戸百景『目黒太鼓橋夕日の岡』	//	//
名所江戸百景『蒲田の梅園』	//	//
名所江戸百景『四ツ谷内藤新宿』	//	//
名所江戸百景『利根川ばらばらまつ』	//	//

掲載記事

児童、三色刷り体験

光ミュージアム 宮小で出張美術館
光ミュージアム（高）人が浮世絵への理解を
山市中山町）が所蔵作
品を児童たちに紹介す
る出張美術館が10日、
同市一の宮町の宮小学
校で開かれ、6年生28
年で12年目。今回は吉
田 隆雄（たかお）さん
が講師を務め、社会科で学
ぶ浮世絵を鑑賞した。
児童は同美術館が所
蔵する歌川広重の「東
海道五十三次」の作品
6点を鑑賞。名作の一
つとされる「蒲原」を
例に、吉井課長が空間
を広く見せる構図の工
夫や、想像力を膨らま
せる人のしぐさなど、
見どころを説明し、児
童は作品をじっくり見
入った。

この後、高師北斎の
「富嶽三十六景」の「神
奈川沖浪裏」を赤、青、
黒色のインクで三色刷
りに挑戦。加藤周平君
（12）は「浮世絵の作り
方を初めて知った。き
れいに刷り上がった
うれしかった」と話して
いた。（大賀由貴子）



多色刷りの版画を体験し、浮世絵の技術を学ぶ
児童＝高山市一の宮町、宮小学校

平成26年11月11日 岐阜新聞掲載

出張美術館の様子



平成27年度

小学校

日付	学校名	人数（クラス数）
10/1（木）	高山市立新宮小学校	83名（3クラス）
10/6（火）	高山市立久々野小学校	32名（1クラス）
10/7（水）	高山市立清見小学校	19名（1クラス）
10/8（木）	高山市立西小学校	33名（1クラス）
10/14（水）	高山市立荘川小学校	10名（1クラス）
10/26（月）	高山市立宮小学校	21名（1クラス）
11/11（水）	高山市立北小学校	108名（3クラス）
11/18（水）	高山市立江名子小学校	47名（2クラス）
11/25（水）	高山市立南小学校	71名（2クラス）
12/1（火）	高山市立花里小学校	47名（2クラス）
12/8（火）	高山市立山王小学校	95名（3クラス）
12/9（水）	高山市立国府小学校	72名（3クラス）
12/11（金）	高山市立東小学校	97名（3クラス）
12/18（金）	高山市立丹生川小学校	49名（2クラス）
合計	14校	784名

中学校

日付	学校名	人数（クラス数）
10/20（火）	高山市立朝日中学校	32名（2クラス）
11/24（火）	高山市立丹生川中学校	56名（2クラス）
11/26（火）	高山市立松倉中学校	163名（5クラス）

日付	学校名	人数（クラス数）
12/10（木）	高山市立日枝中学校	150名（5クラス）
12/15（火）	高山市立中山中学校	150名（5クラス）
12/16（水）	高山市立宮中学校	26名（1クラス）
合計	6校	577名

小学校作品リスト

資料名	作者	備考
東海道五十三次『掛川（秋葉山遠望）』	歌川広重	浮世絵版画
東海道五十三次『見附（天竜川図）』	//	//
東海道五十三次『岡崎（矢矧之橋）』	//	//
東海道五十三次『鳴海（名物有松絞）』	//	//
東海道五十三次『関（本陣早立）』	//	//
東海道五十三次『江尻（三保遠望）』	//	//

中学校作品リスト

資料名	作者	備考
遊女	磯川亭一指	肉筆浮世絵
名所江戸百景『山下町日比谷外さくら田』	歌川広重	浮世絵版画
名所江戸百景『月乃岬』	//	//
名所江戸百景『上野清水堂不忍ノ池』	//	//
名所江戸百景『高輪うしまち』	//	//
名所江戸百景『駒形堂吾嬬橋』	//	//
名所江戸百景『深川洲崎十万坪』	//	//

出張美術館の様子



体験学習

実施にあたって

美術館・博物館が行う教育は、展示のほかに講演・講座をはじめとする多様な形態の学習支援活動がある。さらに、興味・関心を引き出す手法を開発したりアミューズメント性を高めることで、幼児から高齢者まで誰もが気軽に自発的に学習したり、知を愉しむことのできる場となる。当館のレプリカ作りやストラップ作り等は、楽しく学び、美術館・博物館に親しみを感じて頂く事を目的とする。

人類史部門の体験学習

□ビーズ付きオリジナルストラップを作ろう!

日時：平成26・27年度開館中の土曜日

場所：人類史展示室前

対象：小学1年生以上

参加者：平成26年 延べ 103名、平成27年 延べ 115名

参加費：100円

内容：プラ板に古代の絵柄を写したり、オリジナルの模様を描いて色を塗り、紐とビーズをつけてストラップを作る体験学習。平成26年はエジプトVS縄文展、平成27年は地中海世界展に関連した絵柄を追加した。

状況：夏の特別展に関連した絵柄は見栄えがして好評で、そのことが児童や園児らの展示内容への関心へと繋がったようだ。



□ビーズ付きまがたまストラップを作ろう!!

日時：平成26・27年度開館中の日曜日、祝日、お盆期間

場所：人類史展示室前

対象：小学1年生以上

参加者：平成26年 延べ 492名、平成27年 延べ 420名

参加費：100円

内容：カラフルなオープン粘土で作った勾玉に紐を通し、ビーズをトッピングしたストラップを作る体験学習。

状況：展示にあまり興味を示さなかった方が、カラフルな色合いに惹かれて体験学習を始めたことにより、勾玉に興味を持たれるということがあった。

「世界の仮面展」の際は、仮面のストラップを作る人もいた。



飛騨部門の体験学習

□レプリカストラップをつくろう! (スワロフスキーのデコでピカピカ♪)

日時：平成26・27年度開催中の土曜日、日曜日、祝日

場所：飛騨展示室

対象：4歳以上

参加者：平成26年 延べ279名、平成27年 延べ293名

参加費：100円

内容：アンモナイトの化石から取った型に、2色の樹脂を入れてガラスの装飾をし、レプリカを作る体験学習。

状況：うずまき模様のアンモナイトは、その形状から常に子供に人気がある。イカやタコの仲間であることや形状について解説すると低学年でも化石に興味を持つようになった。



□ 光る!アンモナイトレプリカを作ろう!

日時：平成26・27年度開催中の土曜日、日曜日、祝日

場所：飛騨展示室

対象：4歳以上

参加者：平成26年 延べ441名、平成27年 延べ416名

参加費：200円

内容：アンモナイトの化石から取った型に、2色の樹脂を入れて好きな色のLEDキットを埋め込みレプリカを作る体験学習。

状況：近年、ダイオウイカの発見等の影響か、巨大アンモナイトの話は興味を引くことが多く、恐竜などを含め、巨大生物の話は子供の好奇心をくすぐるようだった。



□ 七色に光る!アンモナイトレプリカを作ろう!

日時：平成26年5月3日～5月6日(4日間)、平成26年8月9日～8月17日(9日間)、平成27年5月2日～5月6日(5日間)、平成27年8月8日～8月16日(9日間)

場所：飛騨展示室

対象：4歳以上

参加者：平成26年 延べ71名、平成27年 延べ105名

参加費：300円

内容：アンモナイトの化石から取った型に、レインボーLEDキットを埋め込みレプリカを作る体験学習。

状況：大人には思いおよばないような個性的な色の組み合わせを楽しむ子供たちが多く、出来上がったライトの色の変化に瞳を輝かせていた。

アンモナイトの解説を行うと「自分達が住んでいるところでもアンモナイト化石が発見されている」ことを知り、実際に発掘に行きたいと海生古生物に関心を寄せてくれた。



□レインボーカラーに光る!

ティラノサウルスの歯のレプリカを作ろう!(出張博物館)

主催：丹生川地区社会教育運営委員会

日時：平成26年10月5日、平成27年10月4日

場所：丹生川文化ホール

対象：小学生

参加者：平成26年 26名、平成27年 29名

参加費：300円

内容：平成27年で、6年目のワークショップ。

地層・化石のでき方、地質時代と地球の変遷、恐竜の最新情報や新種について、化石や模型等使い解説した。

次に、レプリカから取ったティラノサウルスの歯の型に、樹脂を入れてレインボーLEDキットを埋め込みレプリカを作る体験学習。

状況：恐竜の説明で子供に人気があったのが、意外にも脳の話だった。途中で話をカットすることなく飽きずに1時間集中し、質問にも積極的に手を挙げて答えてくれた。

レプリカ作りでは、鋸歯がでていないとか、歯の先まで樹脂を押し込めなかったりすることがあるが、全員が一回で作成することができた。

初めは恐竜の名前もあまり出てこない低学年の子供たちが、帰りには恐竜の名前や骨格の箇所の名前を憶えるなど一定の成果を得たワークショップだった。



貸出資料

作品貸出

平成26年度

「生誕100年 佐藤太清展」

資料名	作者名	会場
旅愁	佐藤太清	茨城県天心記念館五浦美術館
//	//	新見美術館
//	//	福知山市佐藤太清記念美術館

「近代日本画にみる さくら展」

資料名	作者名	会場
三美人之図	上村松園	美術館「えき」KYOTO・水野美術館
花の山	鍋木清方	//
夜桜	加山又造	//
春光	横山大観	//

「北斎とリヴィエール」

資料名	作者名	会場
富嶽三十六景（上総ノ海路）	葛飾北斎	佐川美術館・藤枝市郷土博物館
富嶽三十六景（凱風快晴）	//	//
富嶽三十六景（神奈川沖浪裏）	//	//
富嶽三十六景（山下白雨）	//	//
富嶽三十六景（深川万年橋下）	//	//
富嶽三十六景（東都駿台）	//	//
富嶽三十六景（青山門座松）	//	//
富嶽三十六景（武州千住）	//	//
富嶽三十六景（武州玉川）	//	//
富嶽三十六景（甲州犬目峠）	//	//
富嶽三十六景（尾州不二見原）	//	//
富嶽三十六景（東都浅草本願寺）	//	//
富嶽三十六景（武陽佃島）	//	//
富嶽三十六景（相州七里浜）	//	//
富嶽三十六景（相州梅沢左）	//	//
富嶽三十六景（甲州石班沢）	//	//
富嶽三十六景（甲州三島越）	//	//
富嶽三十六景（信州諏訪湖）	//	//
富嶽三十六景（駿州江尻）	//	//
富嶽三十六景（遠江山中）	//	//
富嶽三十六景（常州牛堀）	//	//
富嶽三十六景（江都駿河町三井見世略図）	//	//
富嶽三十六景（御廬川岸より両国橋夕陽見）	//	//
富嶽三十六景（五百らかん寺さづみどう）	//	//
富嶽三十六景（礪川雪ノ旦）1	//	//
富嶽三十六景（下目黒）	//	//
富嶽三十六景（隠田の水車）	//	//
富嶽三十六景（相州江の島）	//	//
富嶽三十六景（東海道江尻田子の浦略図）	//	//
富嶽三十六景（東海道吉田）	//	//
富嶽三十六景（江戸日本橋）	//	//

資料名	作者名	会場
富嶽三十六景（隅田川関屋の里）	葛飾北斎	佐川美術館・藤枝市郷土博物館
富嶽三十六景（登戸浦）	//	//
富嶽三十六景（相州箱根湖水）	//	//
富嶽三十六景（甲州三坂水面）	//	//
富嶽三十六景（東海道程ヶ谷）	//	//
富嶽三十六景（本所立川）	//	//
富嶽三十六景（從千住花街眺望ノ不二）	//	//
富嶽三十六景（東海道品川御殿山ノ不二）	//	//
富嶽三十六景（相州仲原）	//	//
富嶽三十六景（甲州伊沢暁）	//	//
富嶽三十六景（身延川裏不二）	//	//
富嶽三十六景（駿州大野新田）	//	//
富嶽三十六景（駿州片倉茶園ノ不二）	//	//
富嶽三十六景（東海道金谷ノ不二）	//	//
富嶽三十六景（諸人登山）	//	//

「京都画壇の巨星たちⅡ-文化勲章受章者による日本画」

資料名	作者名	会場
三美人之図	上村松園	京都府立堂本印象美術館
わか葉頃	//	//

「鐔木清方と江戸の風情」

資料名	作者名	会場
お稽古	鐔木清方	千葉市美術館
今様浅妻船	//	//
京鹿子娘道成寺	//	//

「横山大観の富士展」

資料名	作者名	会場
不二霊峰	横山大観	平塚市美術館

「お江戸のオシャレ」

資料名	作者名	会場
芸者立姿	一貫斎栄尚	飛騨市美術館
吉原風俗	歌川国勝	//
遊女と禿	歌川国歳	//
傘さし美人	歌川国久	//
遊女と禿	歌川豊広	//
遊女道中	歌川久信	//
遊女と禿	大石真虎	//
遊女と禿	勝川春水	//
遠眼鏡を持つ美人	葛飾北斎	//
美人立姿	菊川英里	//
座敷の二美人	喜多川長麿	//
遊女と禿	琴風舎豊麿	//
三世尾上菊五郎のいがみの権太	作者不詳（在印）	//
柳下縁台納涼美人	作者不詳（奥村派）	//
桜下美人	//	//
立ち美人	作者不詳（懷月堂派）	//
桜下美人	作者不詳（菊川派）	//
遊女	作者不詳（京洛諸画人）	//
立ち美人	作者不詳（正徳・享保期諸画人）	//
遊女立姿	作者不詳（鳥山・喜多川派）	//
遊歩美人	作者不詳（西川派）	飛騨市美術館

資料名	作者名	会場
掛軸を見る三美人	作者不詳（西川派）	飛騨市美術館
人形を遣う娘	作者不詳（西村・石川派）	//
縁先美人	//	//
立ち美人	作者不詳（菱川派）	//
本読み美人	作者不詳（明和・安永期諸画人）	//
桜下美人	赤 南張	//
枕もつ女	月岡雪鼎	//
立ち美人	伝 松野親信	//
立ち美人	鳥居清倍	//
文読む女	西崎竹窓	//
雪中傘さし美人	二代鳥居清満	//
立ち美人 A Woman	古山師政	//
長煙管を持つ遊女	政信印	//
桜下美人	宮川一笑	//
三美人と犬	雪屋主人	//
梅を見る女	籟堂	//

「菱田春草展」

資料名	作者名	会場
瀑布(流動)	菱田春草	東京国立近代美術館

「日本美術院再興100年 特別展 世紀の日本画」

資料名	作者名	会場
罌粟	前田青邨	東京都美術館

平成27年度

「横山大観展 富山を愛した巨匠」

資料名	作者名	会場
蓬萊山	横山大観	富山水墨美術館
竹林	//	//
不盡山	//	//
海浜	//	//
不二霊峰	//	//

開館10周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」展

資料名	作者名	会場
太刀 銘康次	康次	九州国立博物館

「北斎とリヴィエール」

資料名	作者名	会場
富嶽三十六景（上総ノ海路）	葛飾北斎	四日市市立博物館・呉市美術館
富嶽三十六景（凱風快晴）	//	//
富嶽三十六景（神奈川沖浪裏）	//	//
富嶽三十六景（山下白雨）	//	//
富嶽三十六景（深川万年橋下）	//	//
富嶽三十六景（東都駿台）	//	//
富嶽三十六景（青山門座松）	//	//
富嶽三十六景（武州千住）	//	//
富嶽三十六景（武州玉川）	//	//
富嶽三十六景（甲州犬目峠）	//	//
富嶽三十六景（尾州不二見原）	//	//

資料名	作者名	会場
富嶽三十六景（東都浅草本願寺）	葛飾北斎	四日市市立博物館・呉市美術館
富嶽三十六景（武陽佃島）	//	//
富嶽三十六景（相州七里浜）	//	//
富嶽三十六景（相州梅沢左）	//	//
富嶽三十六景（甲州石班沢）	//	//
富嶽三十六景（甲州三島越）	//	//
富嶽三十六景（信州諏訪湖）	//	//
富嶽三十六景（駿州江尻）	//	//
富嶽三十六景（遠江山中）	//	//
富嶽三十六景（常州牛堀）	//	//
富嶽三十六景（江都駿河町三井見世略図）	//	//
富嶽三十六景（御殿川岸より両国橋夕陽見）	//	//
富嶽三十六景（五百らかん寺さざみどう）	//	//
富嶽三十六景（礪川雪ノ旦） 1	//	//
富嶽三十六景（下目黒）	//	//
富嶽三十六景（隠田の水車）	//	//
富嶽三十六景（相州江の島）	//	//
富嶽三十六景（東海道江尻田子の浦略図）	//	//
富嶽三十六景（東海道吉田）	//	//
富嶽三十六景（江戸日本橋）	//	//
富嶽三十六景（隅田川関屋の里）	//	//
富嶽三十六景（登戸浦）	//	//
富嶽三十六景（相州箱根湖水）	//	//
富嶽三十六景（甲州三坂水面）	//	//
富嶽三十六景（東海道程ヶ谷）	//	//
富嶽三十六景（本所立川）	//	//
富嶽三十六景（從千住花街眺望ノ不二）	//	//
富嶽三十六景（東海道品川御殿山ノ不二）	//	//
富嶽三十六景（相州仲原）	//	//
富嶽三十六景（甲州伊沢曉）	//	//
富嶽三十六景（身延川裏不二）	//	//
富嶽三十六景（駿州大野新田）	//	//
富嶽三十六景（駿州片倉茶園ノ不二）	//	//
富嶽三十六景（東海道金谷ノ不二）	//	//
富嶽三十六景（諸人登山）	//	//

「美の伝承－清方と弟子たち」

資料名	作者名	会場
権八小紫	鐔木清方	鐔木清方記念美術館
神田祭	//	//
お稽古	//	//
夏姿	//	//
紅葉	//	//
今様浅妻船	//	//
卯月の装	//	//
立田の錦	//	//
こころのふるさと 江戸十二ヶ月	//	//
行水	//	//
深川冬木 池畔の雨	//	//
五月晴	//	//
清秋	//	//

「描かれた日本のこころ 近代日本画」

資料名	作者名	会場
冬晴	竹内栖鳳	美術館「えき」KYOTO

資料名	作者名	会場
三保之不二山	横山大観	//
不盡山	//	//

「サクラ、桜、さくら展～近・現代巨匠たちの共演～」

資料名	作者名	会場
三美人之図	上村松園	新潟伊勢丹
花の山	鍋木清方	//
夜桜	加山又造	//
春光	横山大観	//

「Sotatsu Making Waves」

資料名	作者名	会場
罌粟	前田青邨	Arther M. Sackler Gallery/The Smithsonian's Museum of Asian Art